

令和5年度  
千曲市障害福祉アンケート調査  
報告書

令和5年12月

# 目次

I	アンケート調査の概要	1
1.	実施概要	1
II	全年齢向け項目の調査結果	2
1.	あなたのこと・周りのことについて	2
2.	あなたの障がいについて	6
3.	暮らしや相談先について	11
4.	悩みごと、相談先について	14
5.	共生社会について	19
6.	障害福祉サービスの利用や情報源について	23
7.	外出について	30
8.	居場所や収入、就労について	33
9.	災害時等の緊急時の対応について	37
III	障がい児向け項目の調査結果	41
1.	ご家庭の状況や子育て環境について	41
2.	障がい児への支援について	44

# I アンケート調査の概要

## 1. 実施概要

### (1) 調査の目的

本調査は、市内在住の障がいのある方を対象に、生活の様子や市の福祉施策に対する意見を聞き、より実態に即した内容の計画策定の基礎資料とするとともに、今後の障がい者福祉施策・障害福祉サービス等の事業運営を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

### (2) 調査の概要

○調査対象：市内にお住まいの身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を交付されている方、障害福祉サービス・障害児通所支援等の受給者証をお持ちの方（保護者含む）、難病のある方から無作為に抽出

○調査期間：令和5年9月1日～9月18日

○配布方法：郵送配布（無作為）

○配布・回収

配布数	回収数	回収率
600 票	420 票	70.0%

(参考) 令和2年度に実施された意識調査における配布・回収

配布数	回収数	回収率
616 票	392 票	63.6%

### (3) 調査結果を見る際の注意点

- 原則として無回答を除き、各設問に回答した人数の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、当該設問に回答した人数を表し、構成比を算出する際の母数としています。
- 百分率による集計では、すべて小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位までを表記します。このため、すべての割合の合計が100%にならない、また複数回答（2つ以上の選択肢を選ぶ設問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果、または、回答者が皆無であることを表します。
- 文章や図表中では、質問文・選択肢を一部省略して表記しています。
- 一部の設問では、平成29年度および令和2年度に実施された同様の調査結果との比較を行っています。
- 障がいの種類別に分析する際、身体障害者手帳を持つ回答者を「身体」、療育手帳を持つ回答者を「知的」、精神障害者保健福祉手帳を持つ回答者を「精神」として省略して示している場合があります。

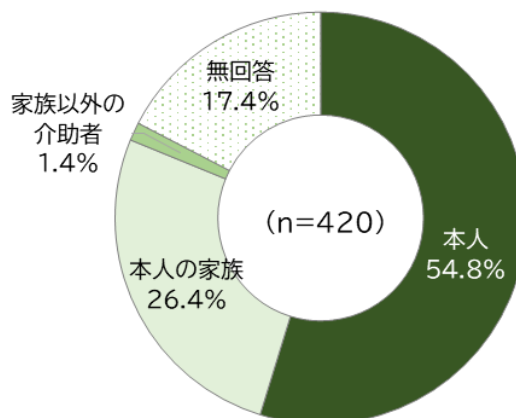
## II 全年齢向け項目の調査結果

### 1. あなたのこと・周りのことについて

- 回答の記入者は 54.8%が本人となっています。
- 回答者の年代は、70代がもっとも多く 22.5%です。60代以上で過半数を占めています。

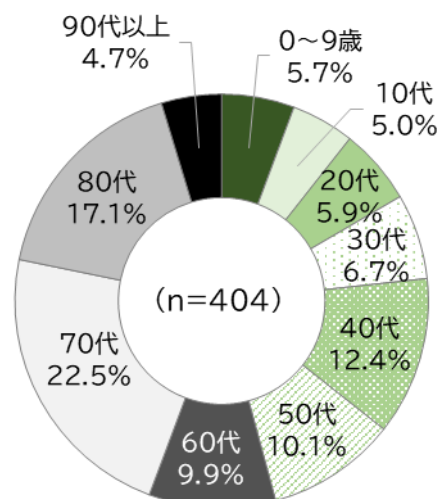
図表 1 記入者

	度数(人)	割合(%)
本人	230	54.8
本人の家族	111	26.4
家族以外の介助者	6	1.4
無回答	73	17.4
合計	420	100



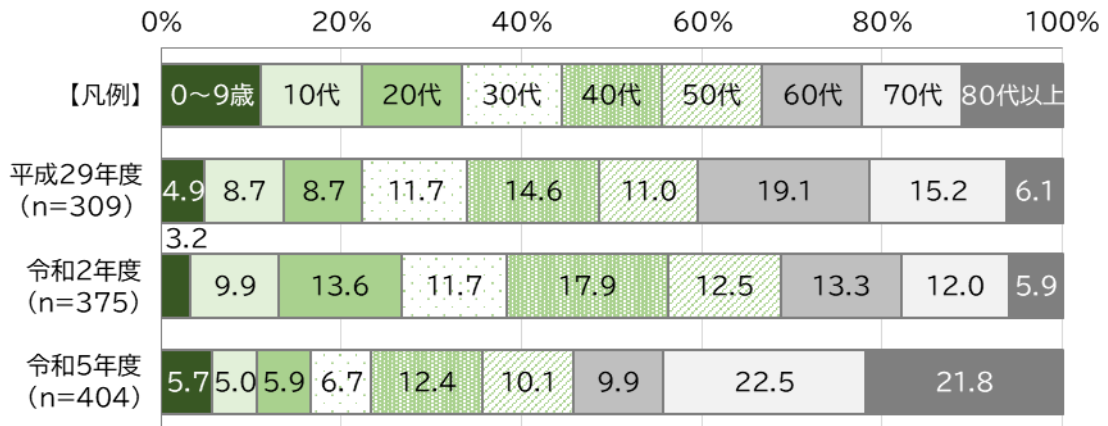
図表 2 年代

	度数(人)	割合(%)
0~9歳	23	5.7
10代	20	5.0
20代	24	5.9
30代	27	6.7
40代	50	12.4
50代	41	10.1
60代	40	9.9
70代	91	22.5
80代	69	17.1
90代以上	19	4.7
合計	404	100.0



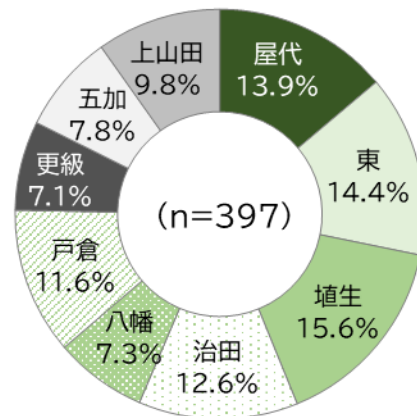
- 回答者の年代を経年比較すると、令和2年度調査と比較して、「70代」および「80代以上」の割合が大きく増加しています。
- 回答者の居住地区は、「埴生」15.6%、「東」14.4%、「屋代」13.9%などとなっています。

図表 3 回答者の年代 経年比較



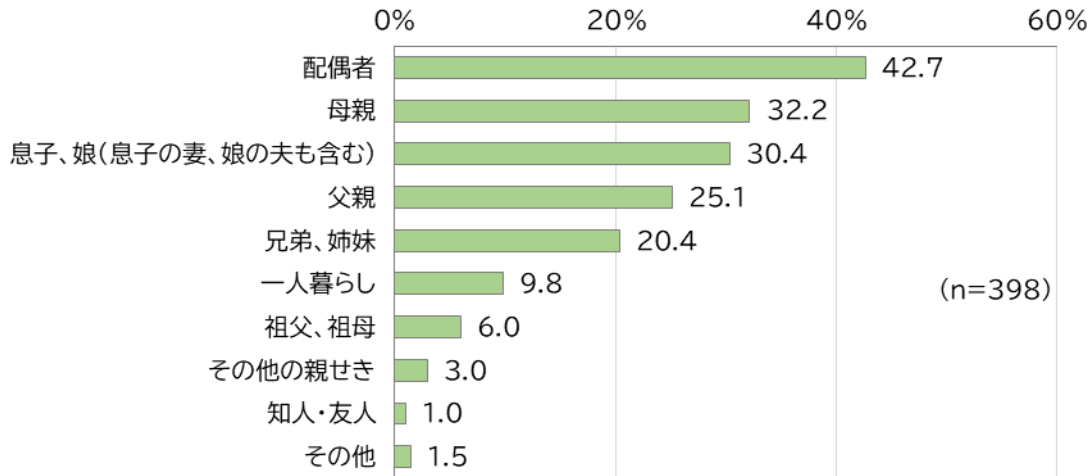
図表 4 居住地区

	度数(人)	割合(%)
屋代	55	13.9
東	57	14.4
埴生	62	15.6
治田	50	12.6
八幡	29	7.3
戸倉	46	11.6
更級	28	7.1
五加	31	7.8
上山田	39	9.8
合計	397	100.0

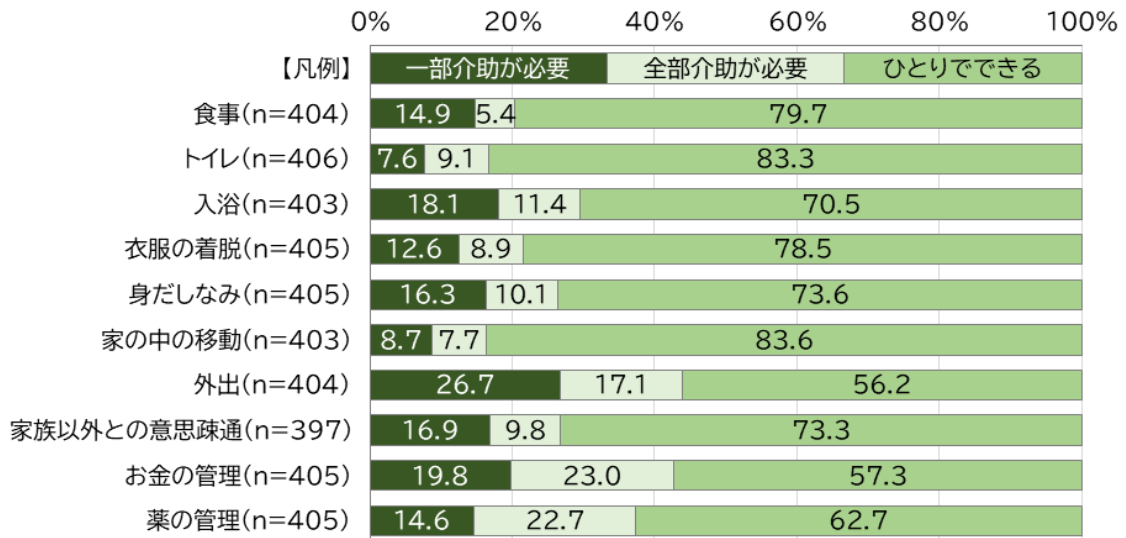


- 回答者が普段一緒に暮らしている人は「配偶者」が42.7%と最も多くなっています。
- 日常生活に要する介助の状況を見ると、「一部必要」「全部必要」の割合が高いのは「外出」(43.8%)、「お金の管理」(42.8%)、「薬の管理」(37.3%) などとなっています。

図表 5 回答者が普段一緒に暮らしている人 (複数回答)



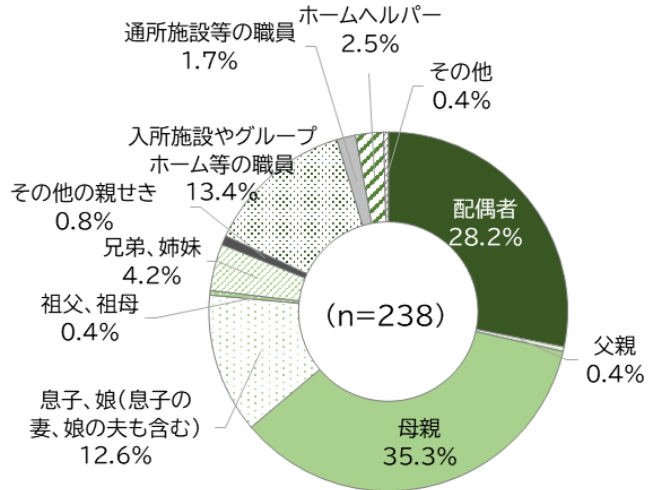
図表 6 日常生活の介助等の状況



- 日常生活の主な介助者は「母親」(35.3%)、「配偶者」(28.2%)が多くなっています。
- 日常生活の主な介助者の年代は60代以上が53.5%と過半数を占めています。
- 経年比較すると、令和2年度調査と比較して60代以上の割合は5.5ポイント増加しています。

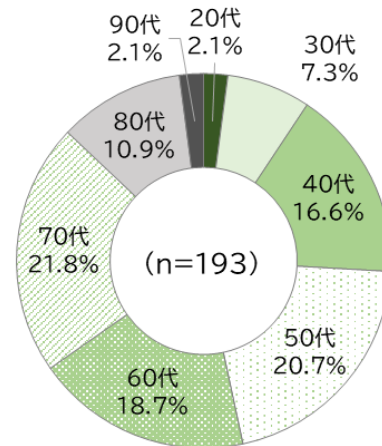
図表 7 日常生活の主な介助者

	度数(人)	割合(%)
配偶者	67	28.2
父親	1	0.4
母親	84	35.3
息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)	30	12.6
祖父、祖母	1	0.4
兄弟、姉妹	10	4.2
その他の親せき	2	0.8
入所施設やグループホーム等の職員	32	13.4
通所施設等の職員	4	1.7
ホームヘルパー	6	2.5
その他	1	0.4
合計	238	100.0

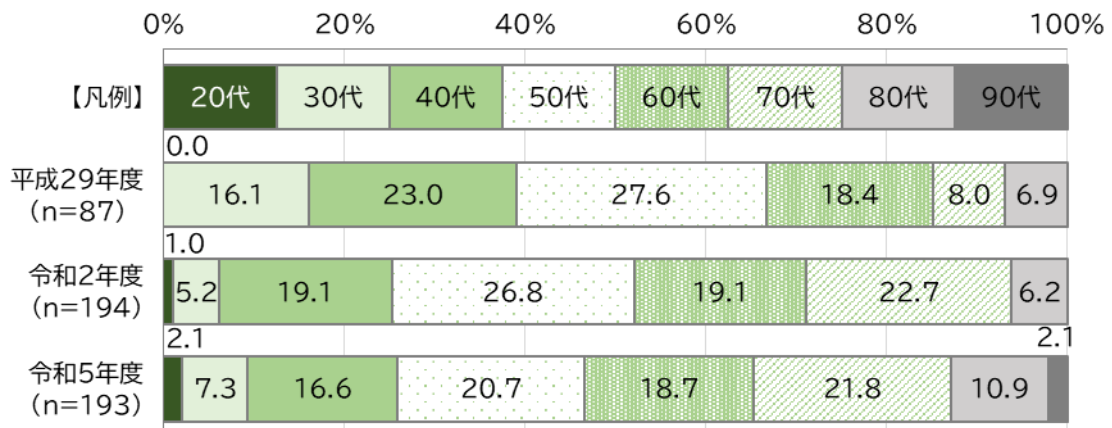


図表 8 日常生活の主な介助者の年代

	度数(人)	割合(%)
20代	4	2.1
30代	14	7.3
40代	32	16.6
50代	40	20.7
60代	36	18.7
70代	42	21.8
80代	21	10.9
90代	4	2.1
合計	193	100.0



図表 9 日常生活の主な介助者の年代 経年比較

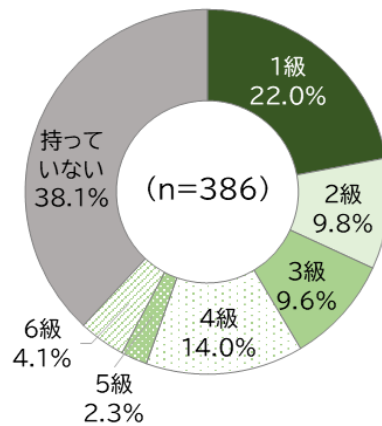


## 2. あなたの障がいについて

- 身体障害者手帳を所持していると回答したのは回答者全体の61.8%であり、このうち「1級」が最も多く全回答者の22.0%となっています。
- 身体障がいの種類は「肢体不自由」が53.7%で最も多くなっています。
- 療育手帳を所持していると回答したのは回答者全体の27.5%であり、このうち最も多いのは「B1」「B2」でそれぞれ全回答者の10.0%となっています。

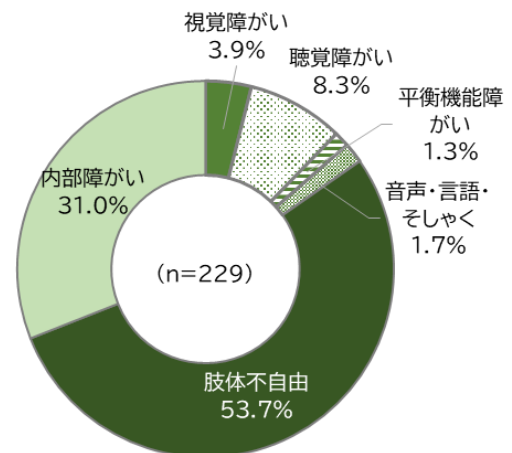
図表 10 身体障害者手帳の等級

	度数(人)	割合(%)
1級	85	22.0
2級	38	9.8
3級	37	9.6
4級	54	14.0
5級	9	2.3
6級	16	4.1
持っていない	147	38.1
合計	386	100.0



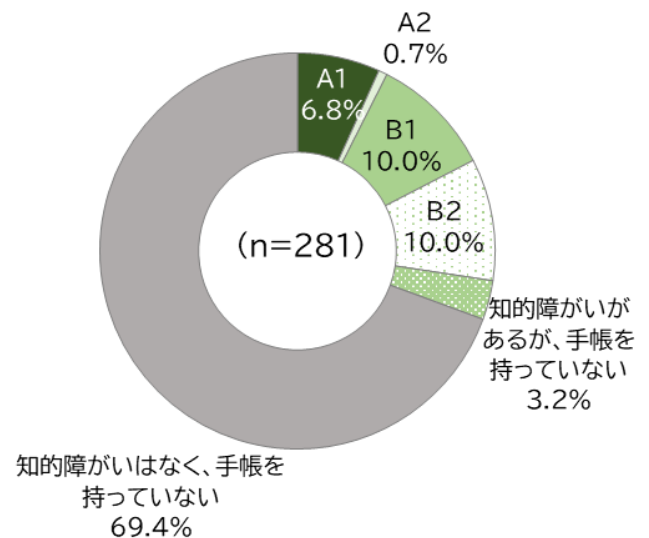
図表 11 身体障がいの種類

	度数(人)	割合(%)
視覚障がい	9	3.9
聴覚障がい	19	8.3
平衡機能障がい	3	1.3
音声・言語・そしゃく	4	1.7
肢体不自由	123	53.7
内部障がい	71	31.0
合計	229	100.0



図表 12 療育手帳における障害の程度

	度数(人)	割合(%)
A1	19	6.8
A2	2	0.7
B1	28	10.0
B2	28	10.0
知的障がいがあるが、手帳を持っていない	9	3.2
知的障がいはなく、手帳を持っていない	195	69.4
合計	281	100.0

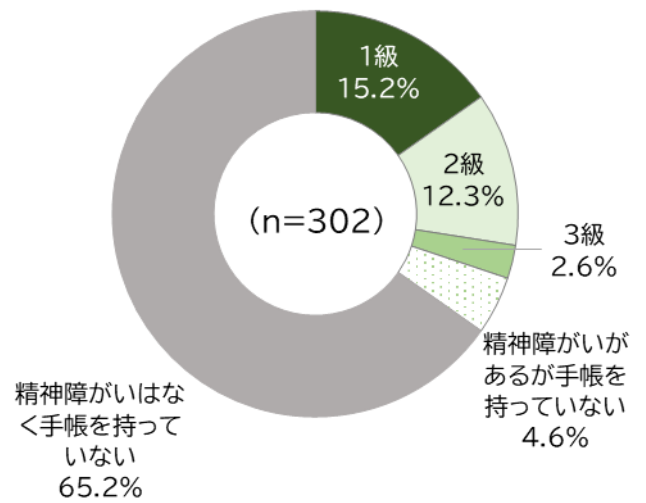




- 精神障害者保健福祉手帳を所持していると回答したのは回答者全体の30.1%であり、このうち「1級」が最も多くなっています。
- 自立支援医療費（精神通院）を受給していると回答したのは26.6%です。

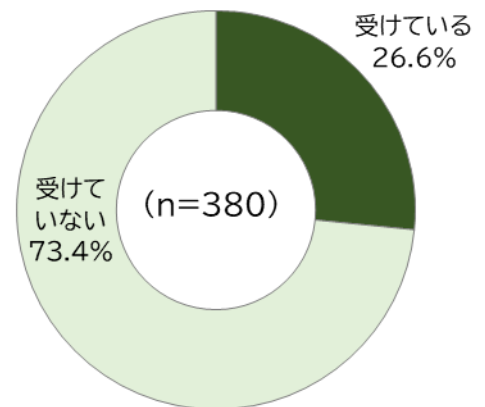
図表 13 精神障害者保健福祉手帳の等級

	度数(人)	割合(%)
1級	46	15.2
2級	37	12.3
3級	8	2.6
精神障がいがあるが手帳を持っていない	14	4.6
精神障がいはなく手帳を持っていない	197	65.2
合計	302	100.0



図表 14 自立支援医療費（精神通院）の受給状況

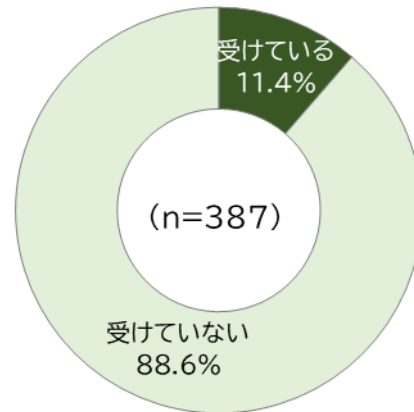
	度数(人)	割合(%)
受けている	101	26.6
受けていない	279	73.4
合計	380	100.0



- 難病の認定を受けていると回答したのは11.4%です。
- 高次脳機能障がい診断経験があるのは3.8%です。
- 強度行動障害の診断経験があるのは6.8%です。

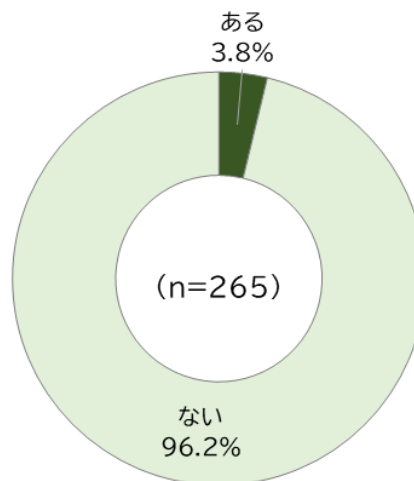
図表 15 難病の認定の有無

	度数(人)	割合(%)
受けている	44	11.4
受けていない	343	88.6
合計	387	100.0



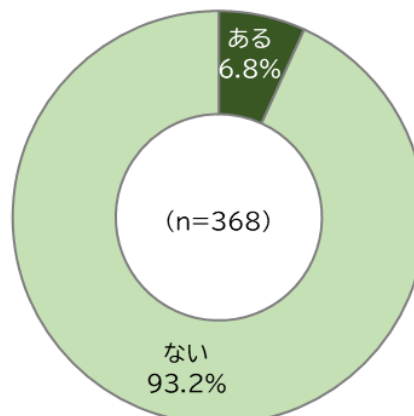
図表 16 高次脳機能障がい診断経験の有無

	度数(人)	割合(%)
ある	10	3.8
ない	255	96.2
合計	265	100.0



図表 17 強度行動障害の診断経験の有無

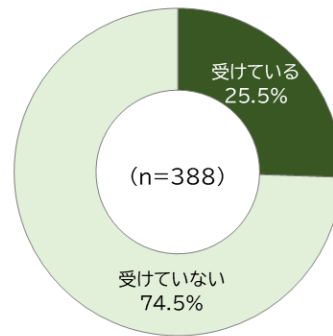
	度数(人)	割合(%)
ある	25	6.8
ない	343	93.2
合計	368	100.0



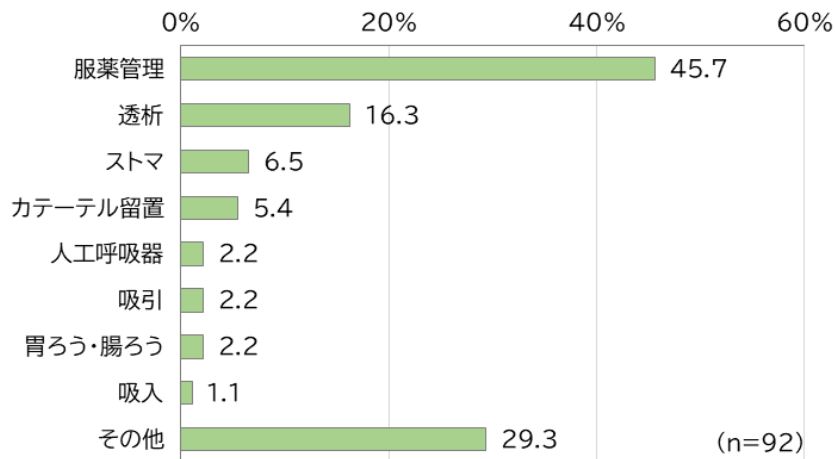
- 医療的ケアを受けているのは、25.5%です。
- 受けている医療的ケアは「服薬管理」が45.7%で最も多くなっています。
- 重症心身障害（重度の肢体不自由と重度の知的障がい重複した状態）に該当する人は18歳未満で2名、成人で5名、それぞれ全数中の割合は5.3%、1.4%となっています。

図表 18 現在医療的ケアを受けているか

	度数(人)	割合(%)
受けている	99	25.5
受けていない	289	74.5
合計	388	100.0



図表 19 現在受けている医療的ケア



図表 20 重症心身障害（※）の状況

重症心身障害(18歳未満)

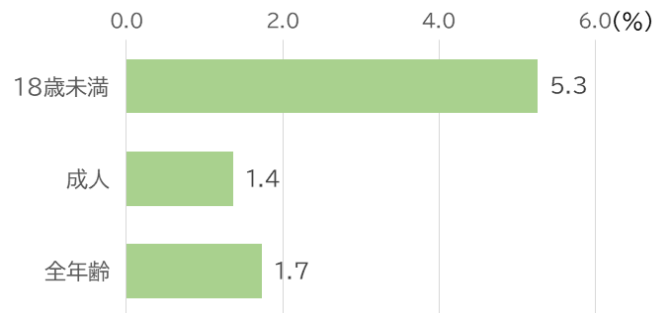
	度数(人)	割合(%)
該当者	2	5.3
非該当者	36	94.7
合計	38	100.0

重症心身障害(成人)

	度数(人)	割合(%)
該当者	5	1.4
非該当者	361	98.6
合計	366	100.0

重症心身障害(全年齢)

	度数(人)	割合(%)
該当者	7	1.7
非該当者	397	98.3
合計	404	100.0

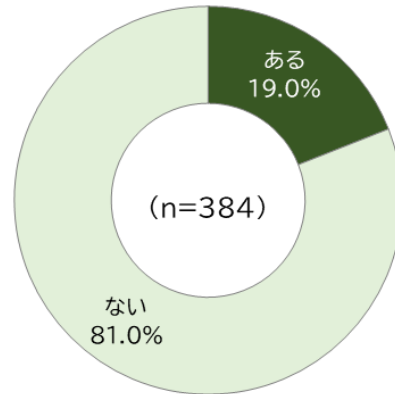


※身体障害者手帳（肢体不自由）「1・2級」及び療育手帳「A1」所持者を該当者とした。

- 発達障がい診断経験があるのは、19.0%となっています。
- 発達障がいと診断された年代は「0～3歳」が35.4%で最も多く、18歳以下での診断が81.5%を占めています。
- 発達障がいに気づいたきっかけは、「病院の診察を受けて」が37.5%で最も多く、次いで「乳幼児健診を受けて」「学校に進学してから」が多くなっています。

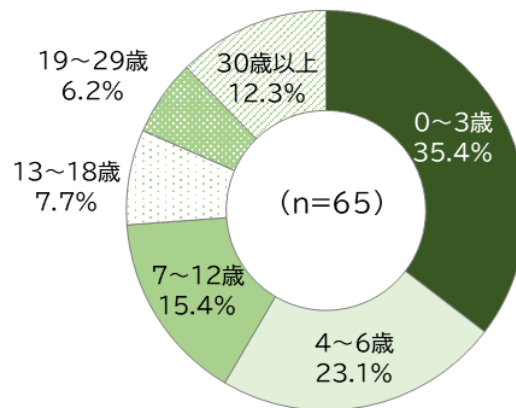
図表 21 発達障がいの診断経験の有無

	度数(人)	割合(%)
ある	73	19.0
ない	311	81.0
合計	384	100.0

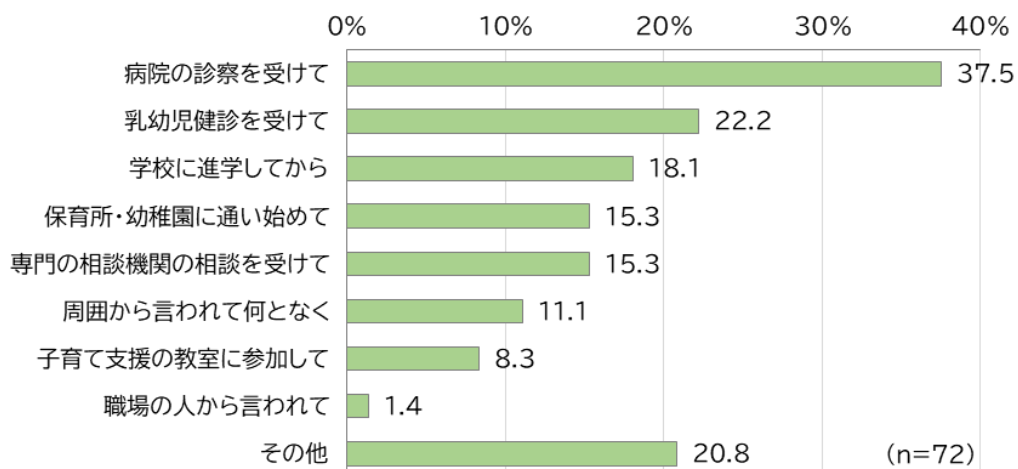


図表 22 発達障がいと診断された年代

	度数(人)	割合(%)
0～3歳	23	35.4
4～6歳	15	23.1
7～12歳	10	15.4
13～18歳	5	7.7
19～29歳	4	6.2
30歳以上	8	12.3
合計	65	100.0



図表 23 発達障がいに気づいたきっかけ

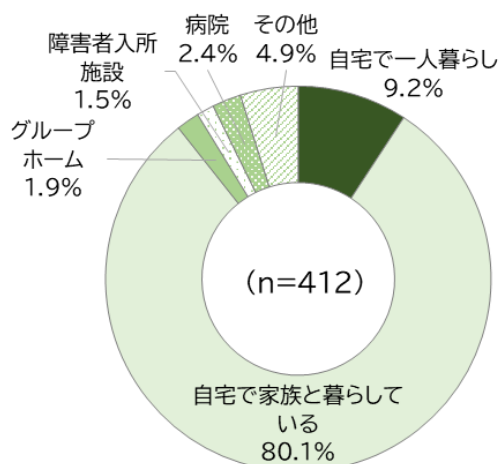


### 3. 暮らしや相談先について

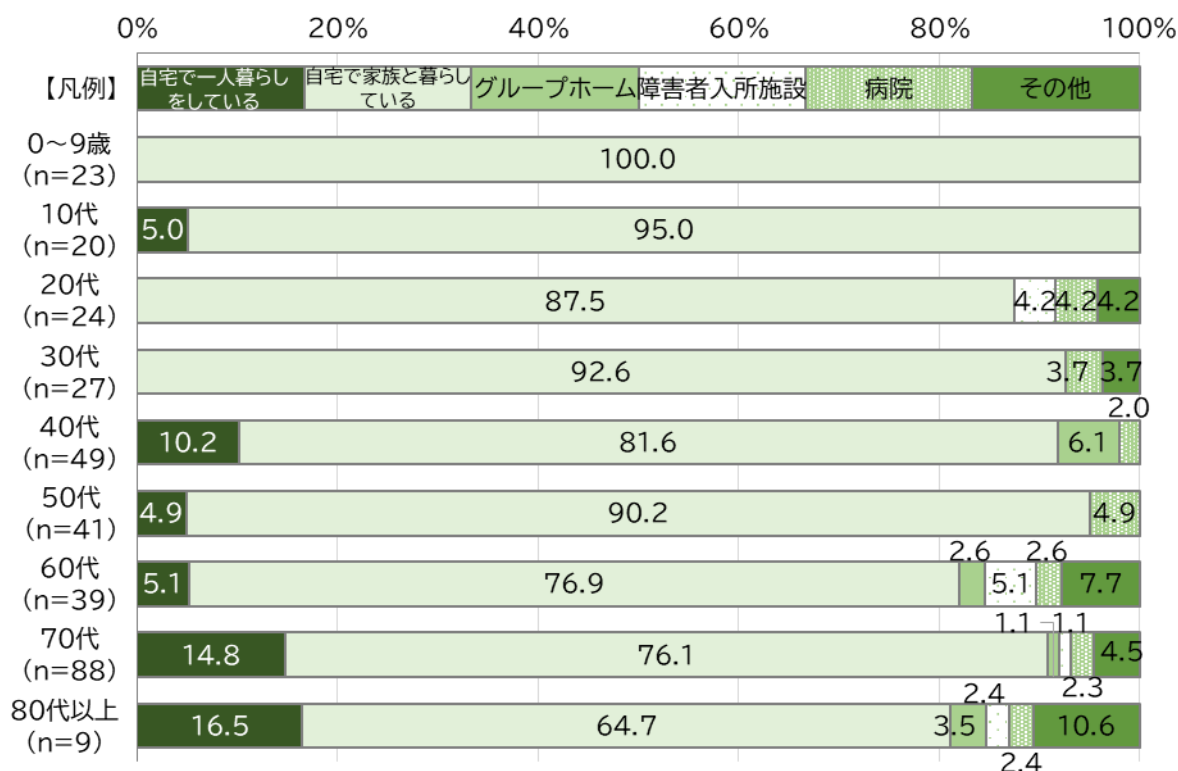
- 現在暮らしている場所は、「自宅で家族と暮らしている」が80.1%で最も多く、次いで「自宅で一人暮らしをしている」が9.2%となっています。
- 本人の年代別にみると、「自宅で一人暮らしをしている」の割合が最も高いのは80代以上で16.5です。また、「グループホーム」割合が最も高いのは40代で6.1%、「障害者入所施設」の割合が最も高いのは60代で5.1%となっています。

図表 24 現在暮らしている場所

	度数(人)	割合(%)
自宅で一人暮らし	38	9.2
自宅で家族と暮らしている	330	80.1
グループホーム	8	1.9
障害者入所施設	6	1.5
病院	10	2.4
その他	20	4.9
合計	412	100.0



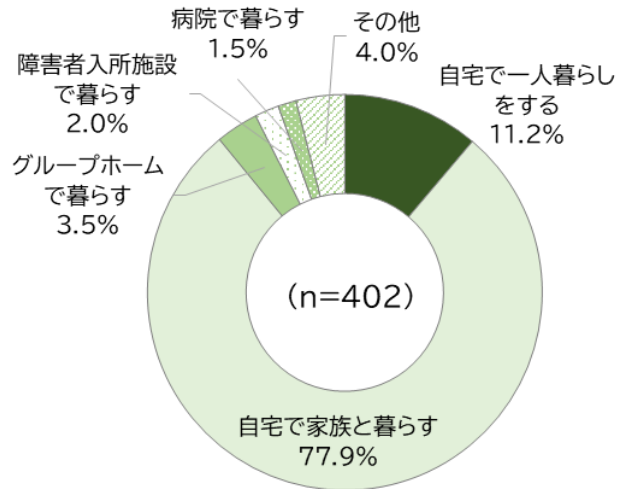
図表 25 現在暮らしている場所 本人の年代とのクロス集計



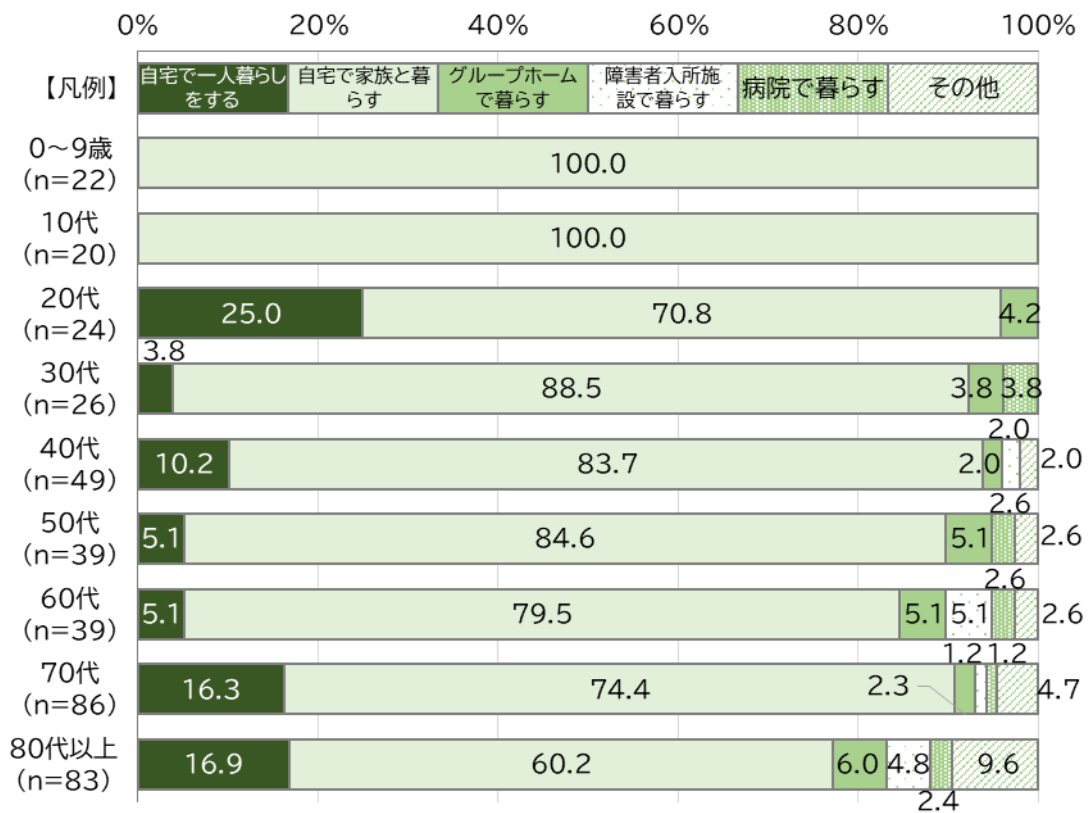
- 今後3年以内に暮らしたい場所としては、「自宅で家族と暮らす」が77.9%で最も多く、次いで「自宅で一人暮らしをする」が11.2%となっています。
- 今後3年以内に暮らしたい場所を本人の年代別にみると、「自宅で一人暮らしをする」の割合が最も高いのは20代で25.0%となっており、次いで80代以上の16.9%、70代の16.3%などとなっており、いずれも前ページの「現在」より割合が増加しています。

図表 26 今後3年以内に暮らしたい場所

	度数(人)	割合(%)
自宅で一人暮らしをする	45	11.2
自宅で家族と暮らす	313	77.9
グループホームで暮らす	14	3.5
障害者入所施設で暮らす	8	2.0
病院で暮らす	6	1.5
その他	16	4.0
合計	402	100.0

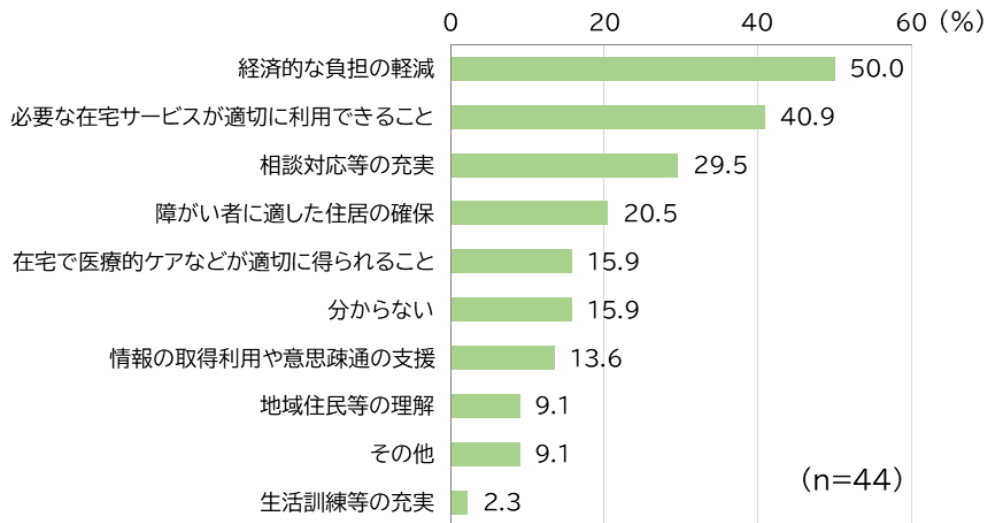


図表 27 今後3年以内に暮らしたい場所 本人の年代



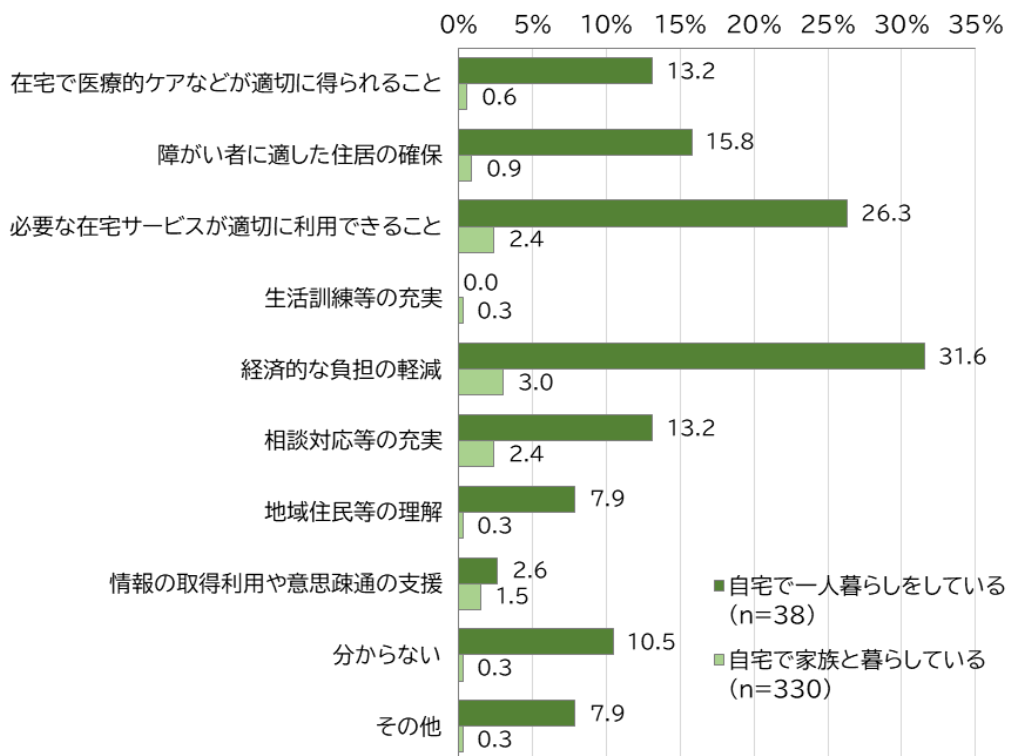
- 希望する暮らしを送るために必要な支援について複数回答できいたところ、回答数のなかで最も割合が高いのが「経済的な負担の軽減」で50.0%、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が40.9%、「相談対応等の充実」が29.5%となっています。

図表 28 希望する暮らしを送るために必要な支援（複数回答）



- 希望する暮らしを送るために必要な支援を、「自宅で一人暮らしをしている」人と「自宅で家族と暮らしている」人とで比べると、「自宅で一人暮らしをしている」人の回答割合がいずれの項目でも高く、特に「経済的な負担の軽減」「必要な在宅サービスが適切に利用できること」「障がい者に適した住居の確保」の割合が高くなっています。

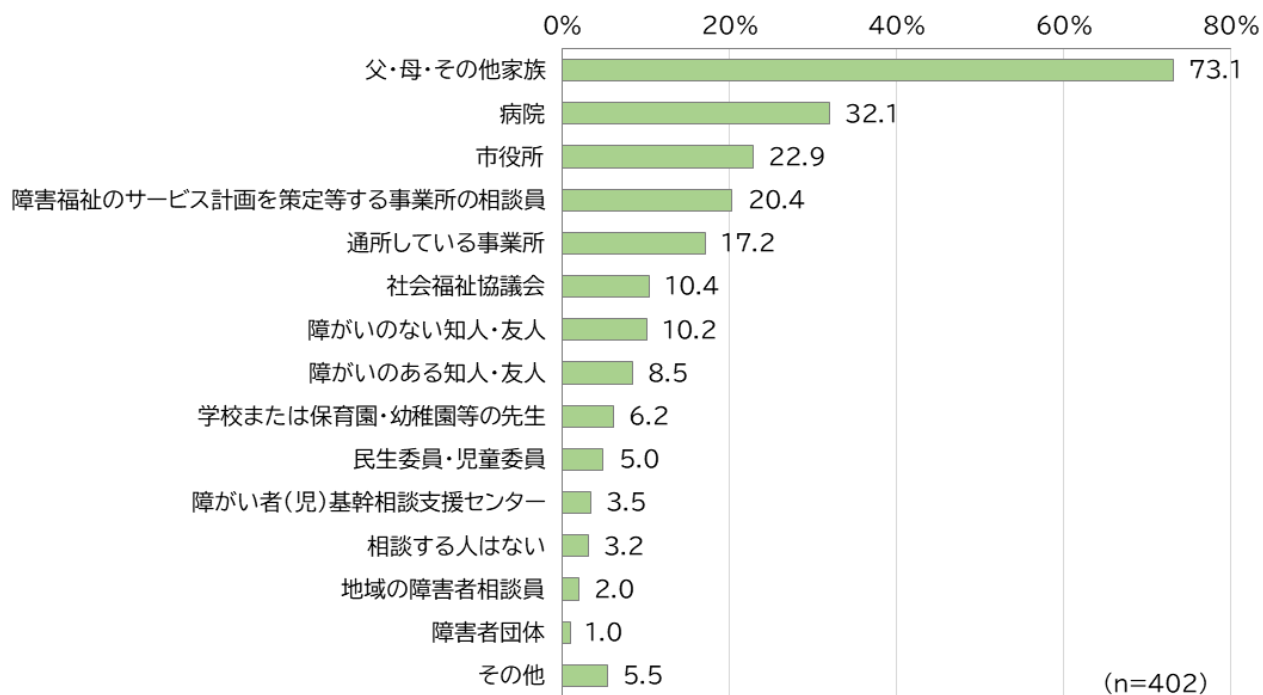
図表 29 希望する暮らしを送るために必要な支援 現在の暮らしとのクロス集計



## 4. 悩みごと、相談先について

- 困ったとき、悩んでいるときの相談先は、「父・母・その他家族」が73.1%で最も多く、次いで「病院」「市役所」が高くなっています。

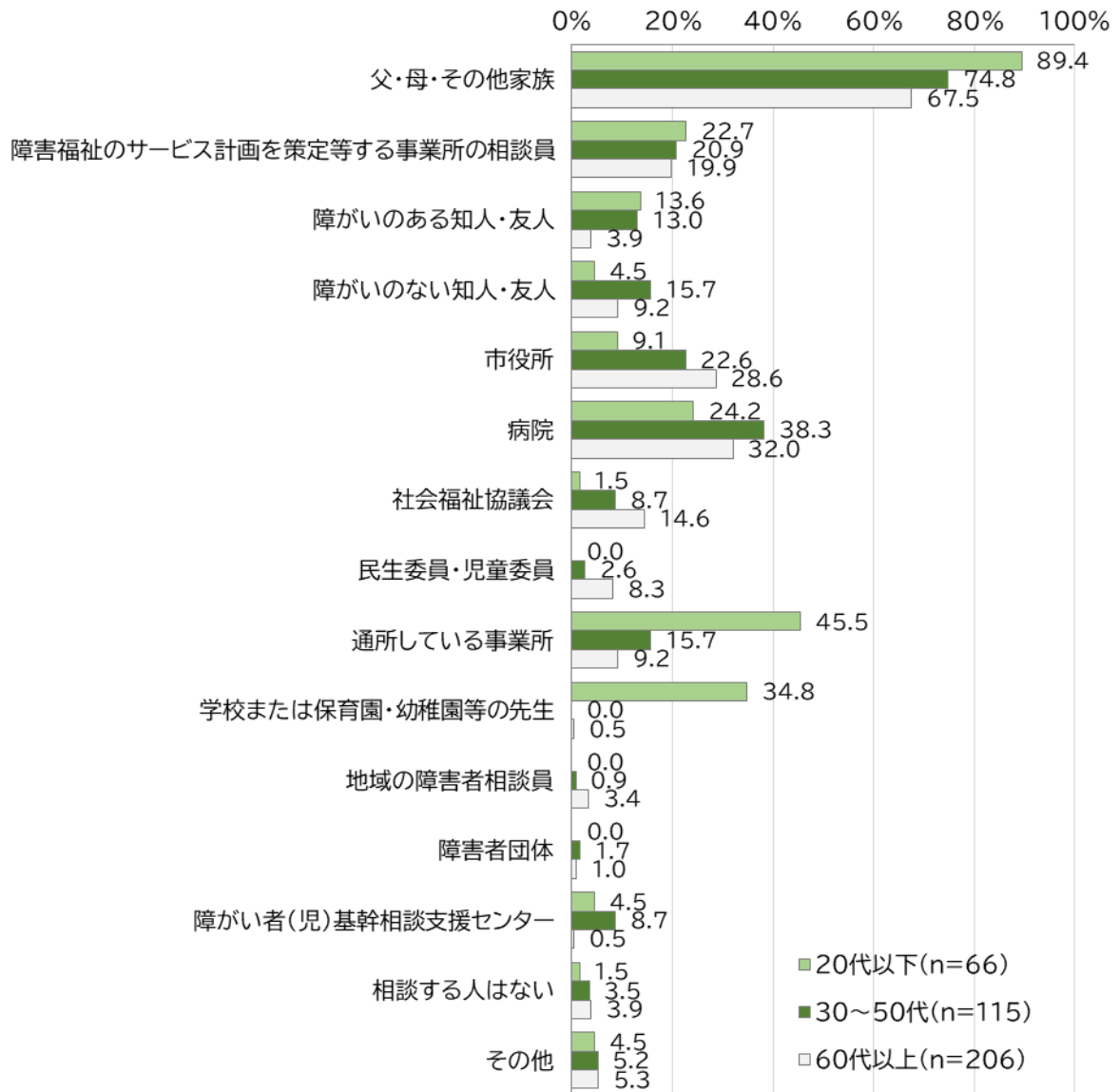
図表 30 困ったとき、悩んでいるときの相談先（複数回答）





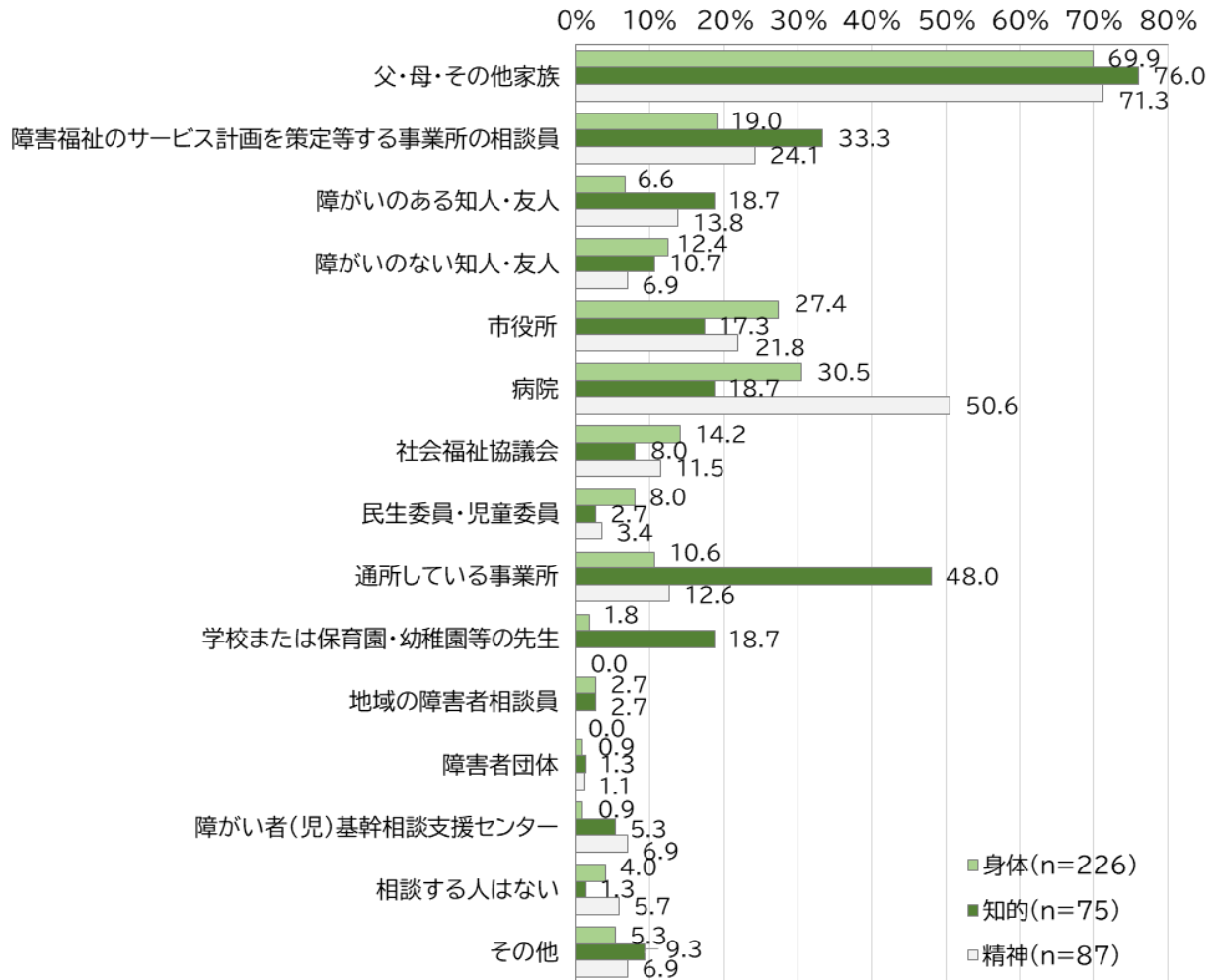
- 困ったとき、悩んでいるときの相談先を、回答者の年代別にみると、どの年代でも「父・母・その他家族」が最も多くなっています。60代以上では他の年代と比較して、「市役所」「社会福祉協議会」の割合が高くなっています。「障がい者（児）基幹相談支援センター」はどの年代でも相談先としての利用は10%以下に留まっています。

図表 31 困ったとき、悩んでいるときの相談先 回答者の年代とのクロス集計



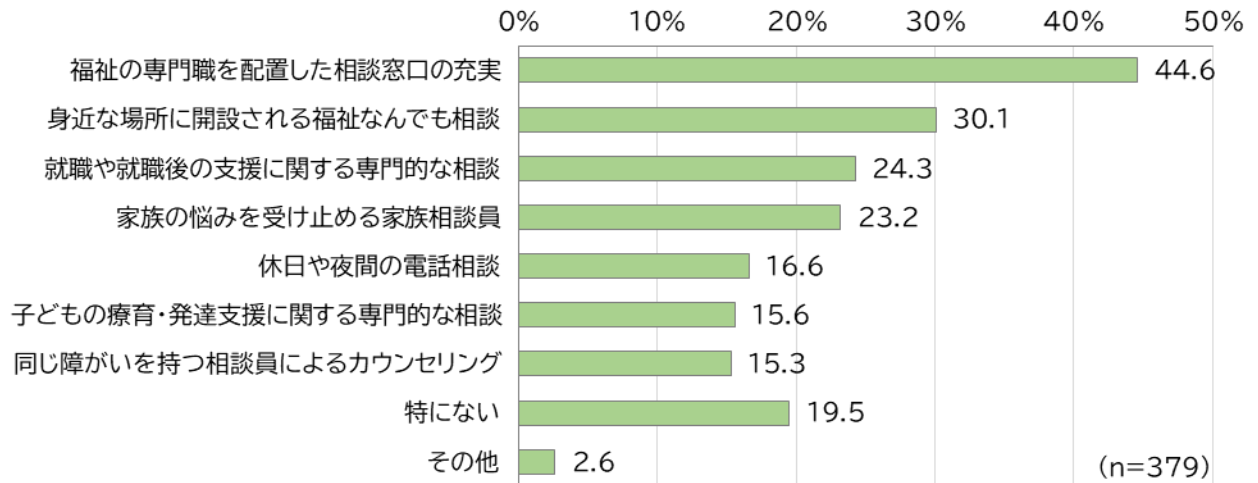
- 困ったとき、悩んでいるときの相談先を、障がいの種類別にみると、種類を問わず「父・母・その他家族」が最も多くなっています。
- これに次ぐものとしては、「知的」では「通所している事業所」「障害福祉のサービス計画を策定等する事業所の相談員」などが、「精神」では「病院」「障害福祉のサービス計画を策定等する事業所の相談員」などが多くなっています。

図表 32 困ったとき、悩んでいるときの相談先 障がいの種類とのクロス集計



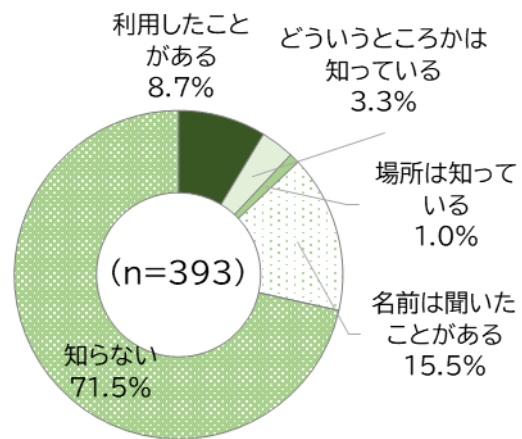
- 相談支援体制に望むこととしては、「福祉の専門職を配置した相談窓口の充実」が最も多く、次いで「身近な場所に開設される福祉なんでも相談」が多くなっています。
- 「障がい者（児）基幹相談支援センター」の認知度は、「知らない」が71.5%で最も多く、「利用したことがある」「どういうところかは知っている」の割合は12.0%に留まっています。

図表 33 相談支援体制に望むこと（複数回答）



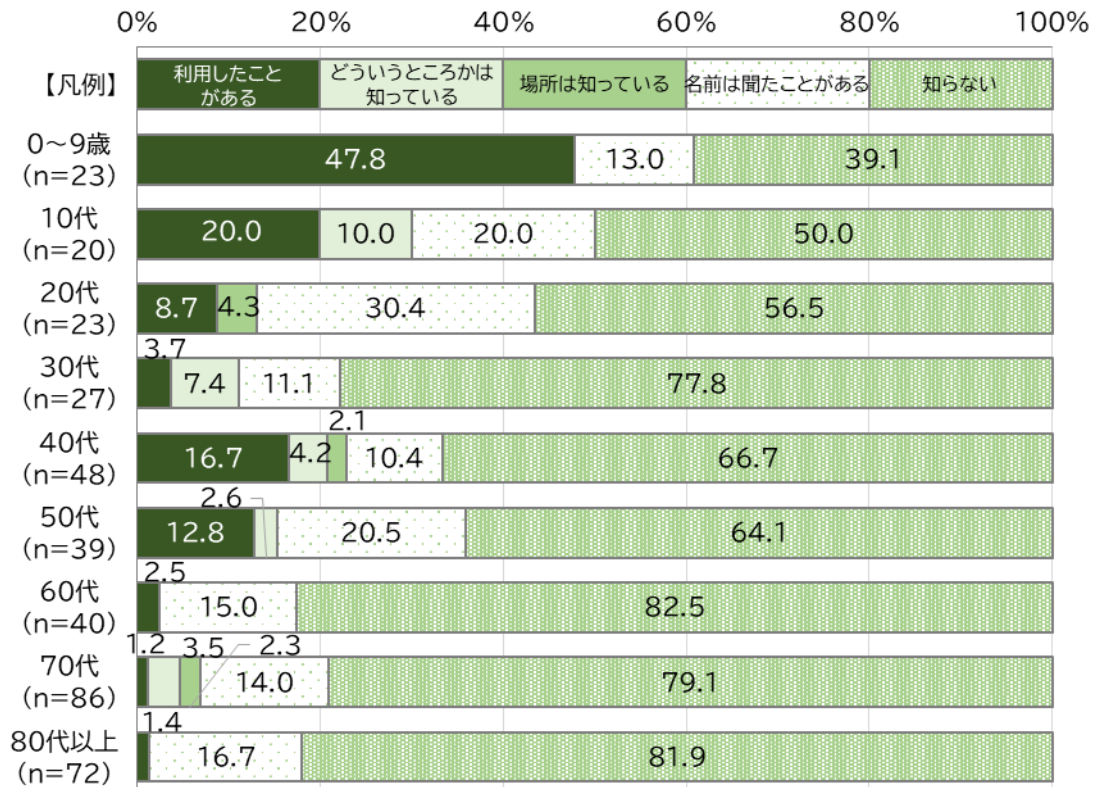
図表 34 「障がい者（児）基幹相談支援センター」の認知度

	度数(人)	割合(%)
利用したことがある	34	8.7
どういうところかは知っている	13	3.3
場所は知っている	4	1.0
名前は聞いたことがある	61	15.5
知らない	281	71.5
合計	393	100.0



- 「障がい者（児）基幹相談支援センター」の認知度を回答者の年代別にみると、「知らない」の割合は30代以上が6～8割程度となっており、認知度が低い傾向にあります。

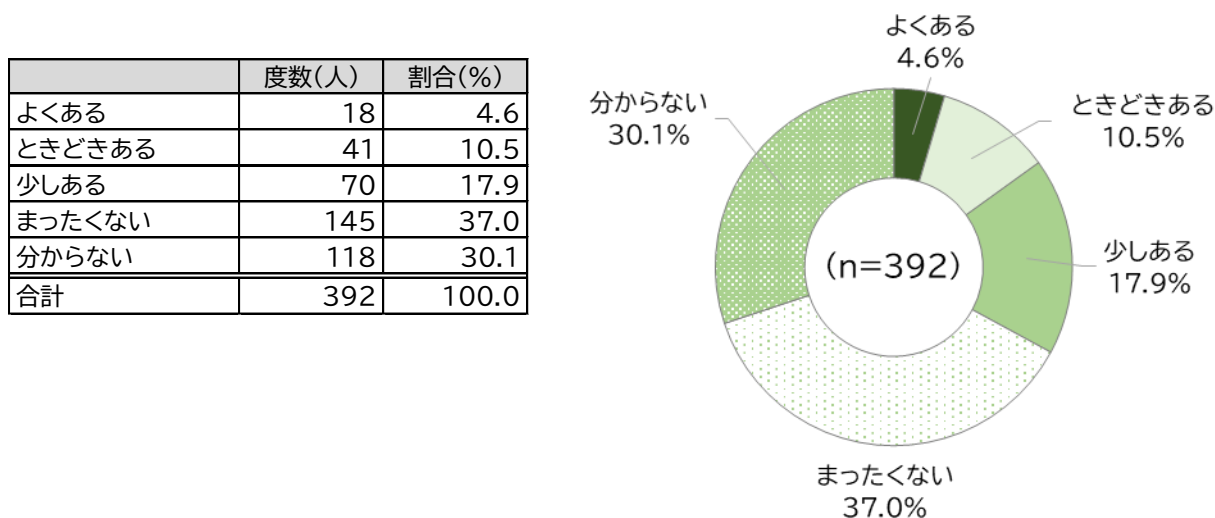
図表 35 「障がい者（児）基幹相談支援センター」の認知度  
回答者の年代とのクロス集計



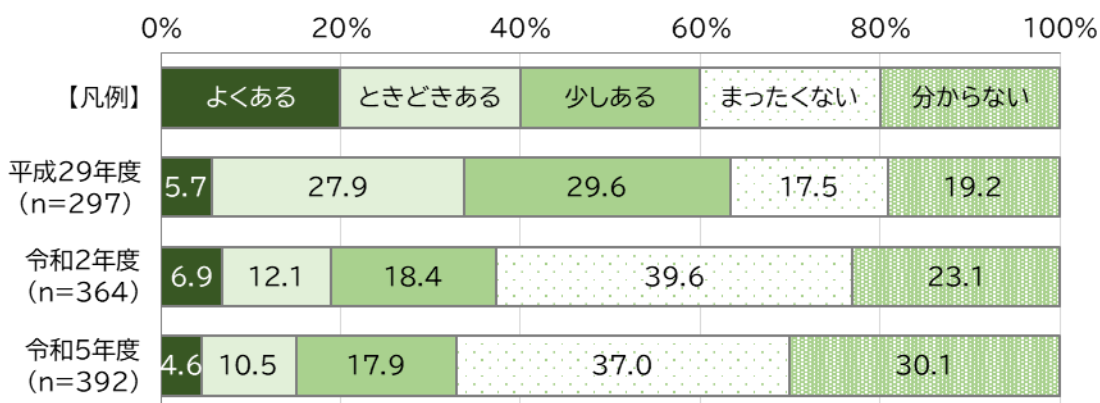
## 5. 共生社会について

- 障がいを理由とした差別的扱いをされ、いやな思いをした経験の有無をみると、「まったくない」が37.0%で最も多いものの、「よくある」「ときどきある」「少しある」も割合も32.9%となっています。
- 経年比較すると、令和2年度調査と比較して、「分からない」の割合が増加しており、「よくある」「ときどきある」「少しある」の合計割合も「まったくない」の割合も減少しています。

図表 36 障がいを理由とした差別的扱いをされ、いやな思いをした経験の有無

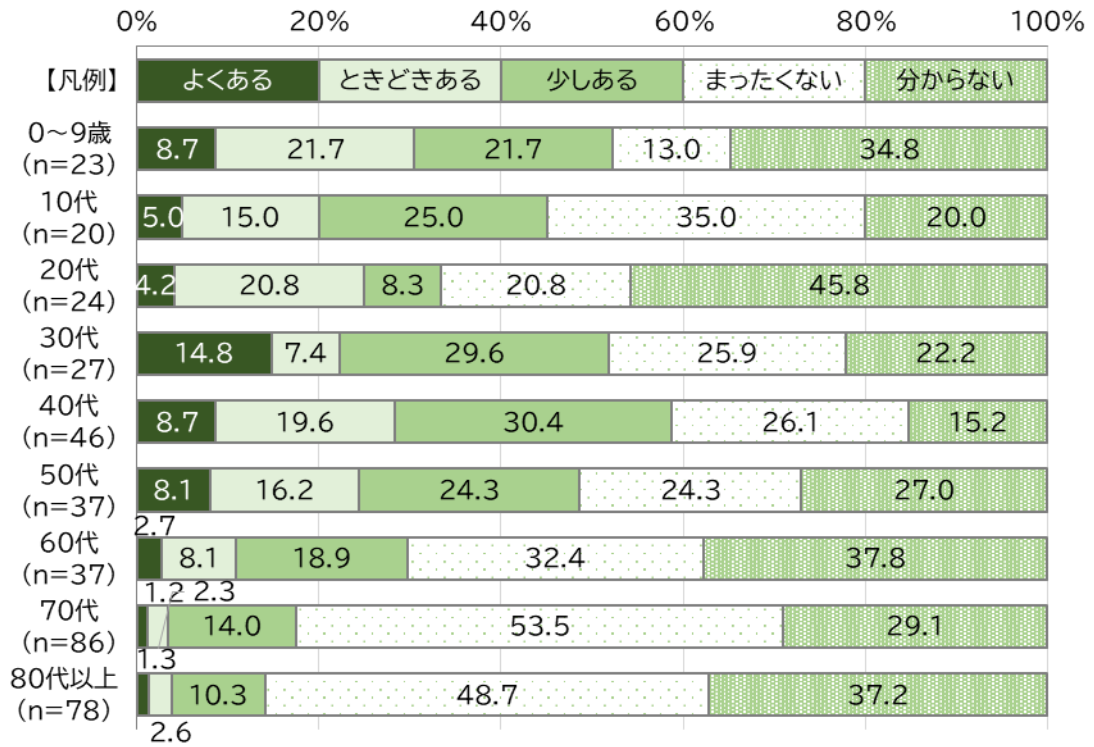


図表 37 障がいを理由とした差別的扱いをされ、いやな思いをした経験の有無 経年比較



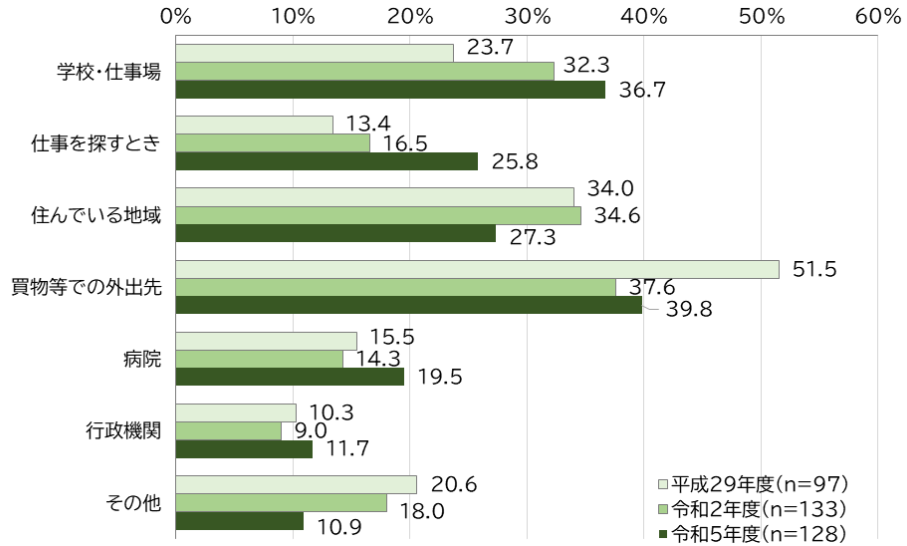
- 障がいを経験した理由として「差別待遇を受けた」「いやな思いをした」という経験の有無を、本人の年代別にみると、「よくある」「ときどきある」「少しある」の割合の合計は「40代」が最も高く58.7%となっています。次いで「0～9歳」(52.1%)、「30代」(51.8%)となっています。

図表 38 障がいを経験した理由として「差別待遇を受けた」「いやな思いをした」という経験の有無  
本人の年代とのクロス集計

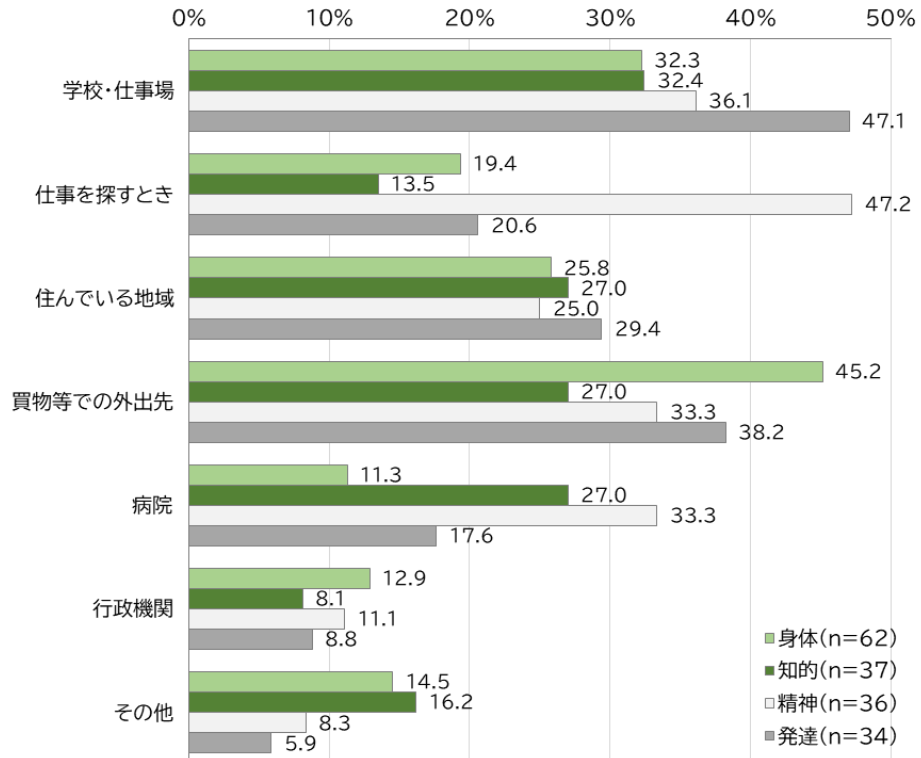


- 障がいを理由とした差別的扱いをされ、いやな思いをした場所や状況を経年比較すると、令和2年度調査と比較して、「学校・仕事場」「仕事を探すとき」で増加している一方で「住んでいる地域」で減少しています。
- 障がいの種類別にみると、「学校・仕事場」では「発達」、「仕事を探すとき」では「精神」、「買い物等での外出先」では「身体」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 39 差別的扱いをされ、いやな思いを経験した場所や状況経年比較

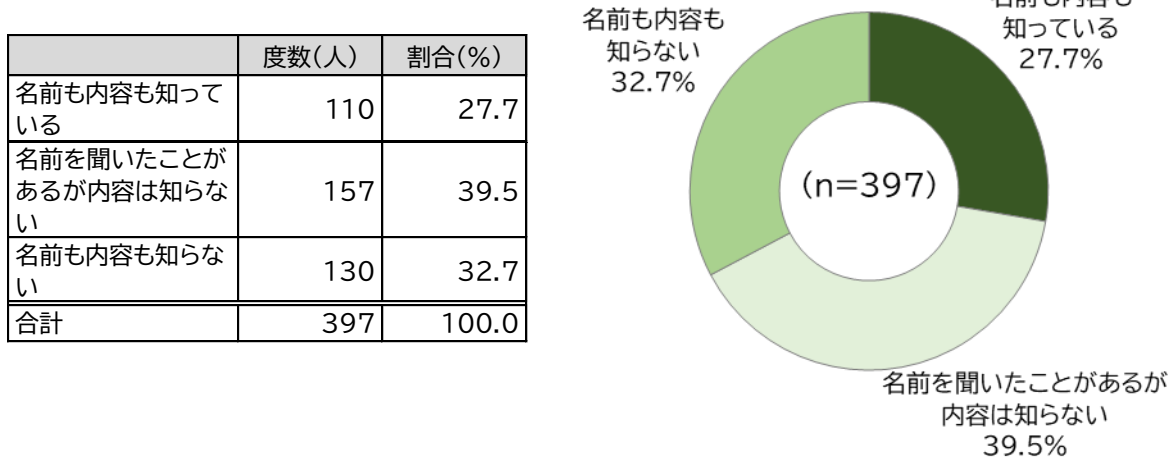


図表 40 差別的扱いをされ、いやな思いを経験した場所や状況  
障がいの種類とのクロス集計

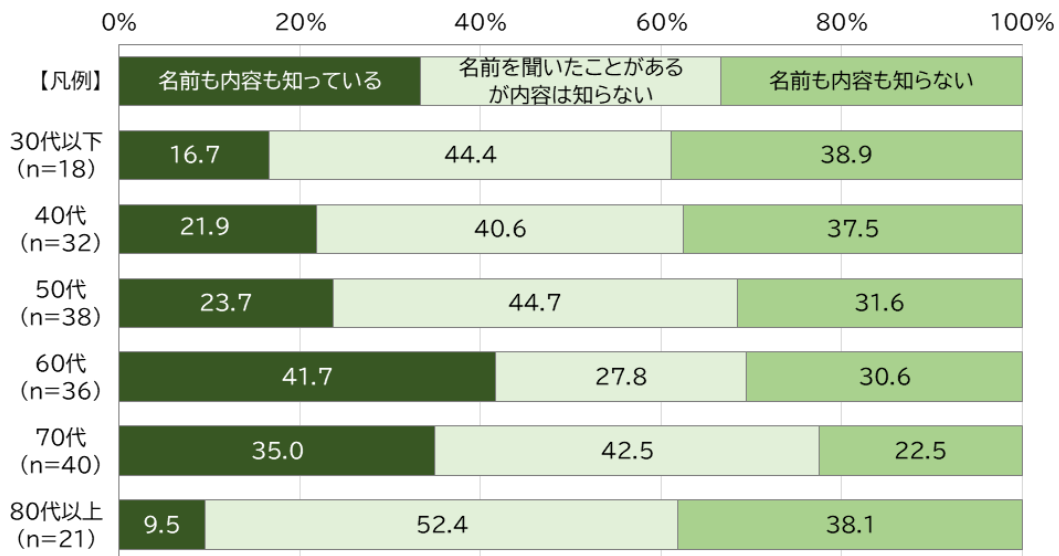


- 成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知らない」が32.7%を占めています。
- 介護者の年代別にみると、「名前も内容も知っている」の割合が最も高いのは60代で41.7%となっています。一方「名前も内容も知らない」の割合は、最も高い30代以下(38.9%)に次いで80代以上(38.1%)が高くなっています。

図表 41 成年後見制度の認知度



図表 42 成年後見制度の認知度 介護者の年代とのクロス集計



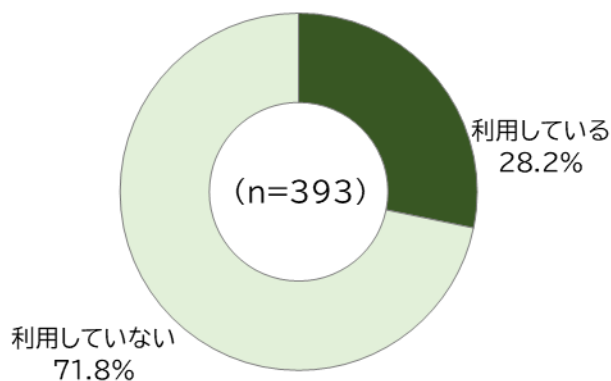


## 6. 障害福祉サービスの利用や情報源について

- 回答者のうち 28.2%が障害福祉サービスを利用しています。
- 障害支援区分の認定についてきいたところ、認定を受けている人は回答者 321 人中 31 人 (9.7%) です。このうち「区分2」が 13 人と、最も多くなっています。

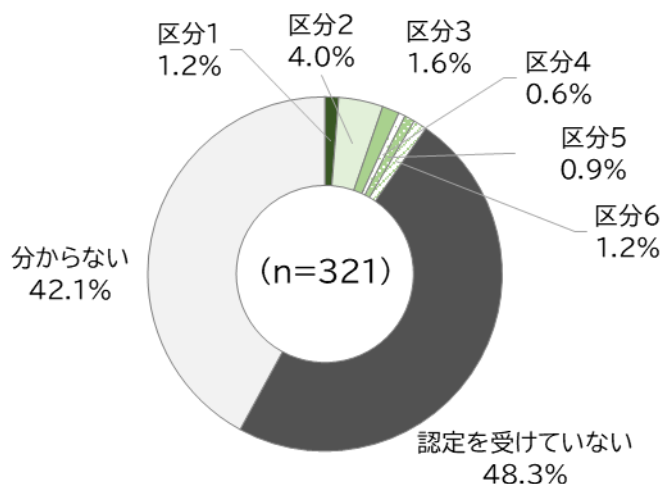
図表 43 障害福祉サービスの利用の有無

	度数(人)	割合(%)
利用している	111	28.2
利用していない	282	71.8
合計	393	100.0



図表 44 障害支援区分の認定の有無

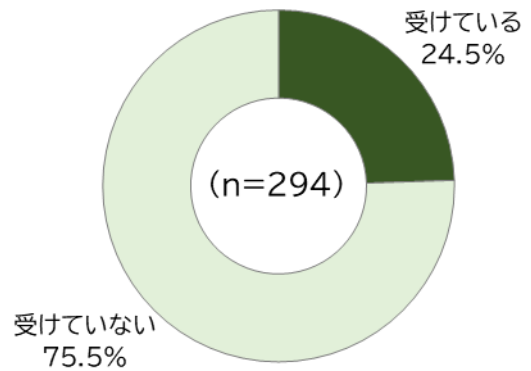
	度数(人)	割合(%)
区分1	4	1.2
区分2	13	4.0
区分3	5	1.6
区分4	2	0.6
区分5	3	0.9
区分6	4	1.2
認定を受けていない	155	48.3
分からない	135	42.1
合計	321	100.0



- 介護保険の要支援・要介護認定を受けているのは回答者のうち、24.5%です。
- 介護保険の要支援・要介護認定を受けている人のうち、要支援1・2が32.8%を占めており、要介護1・2が30.0%、要介護3～5が37.1%を占めています。

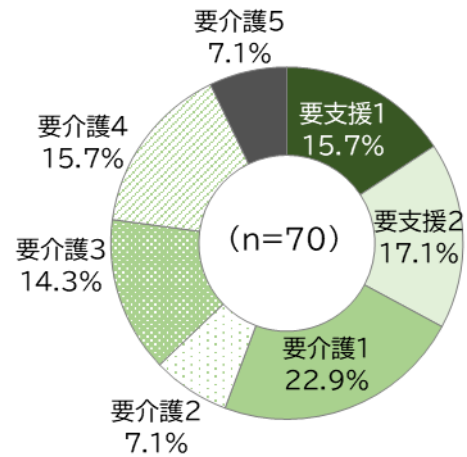
図表 45 介護保険の要支援・要介護認定の有無

	度数(人)	割合(%)
受けている	72	24.5
受けていない	222	75.5
合計	294	100.0



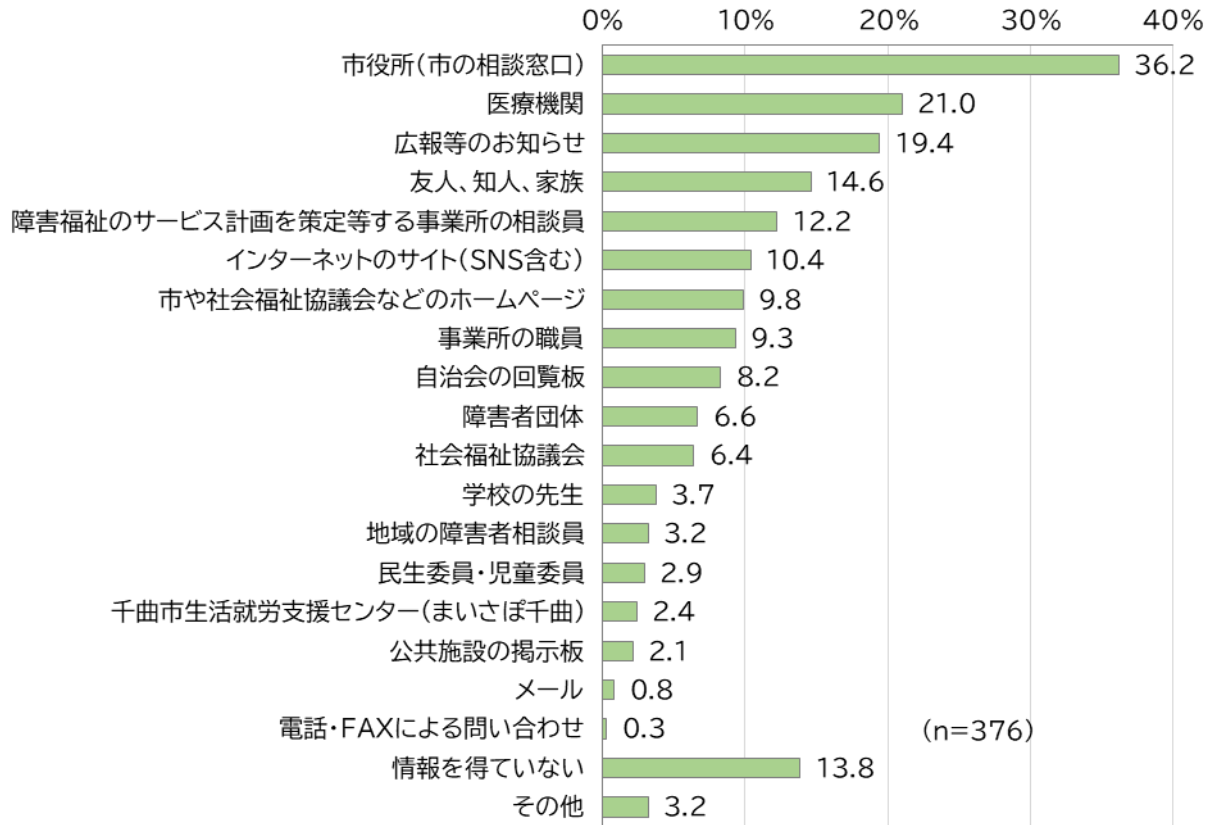
図表 46 要介護度

	度数(人)	割合(%)
要支援1	11	15.7
要支援2	12	17.1
要介護1	16	22.9
要介護2	5	7.1
要介護3	10	14.3
要介護4	11	15.7
要介護5	5	7.1
合計	70	100.0



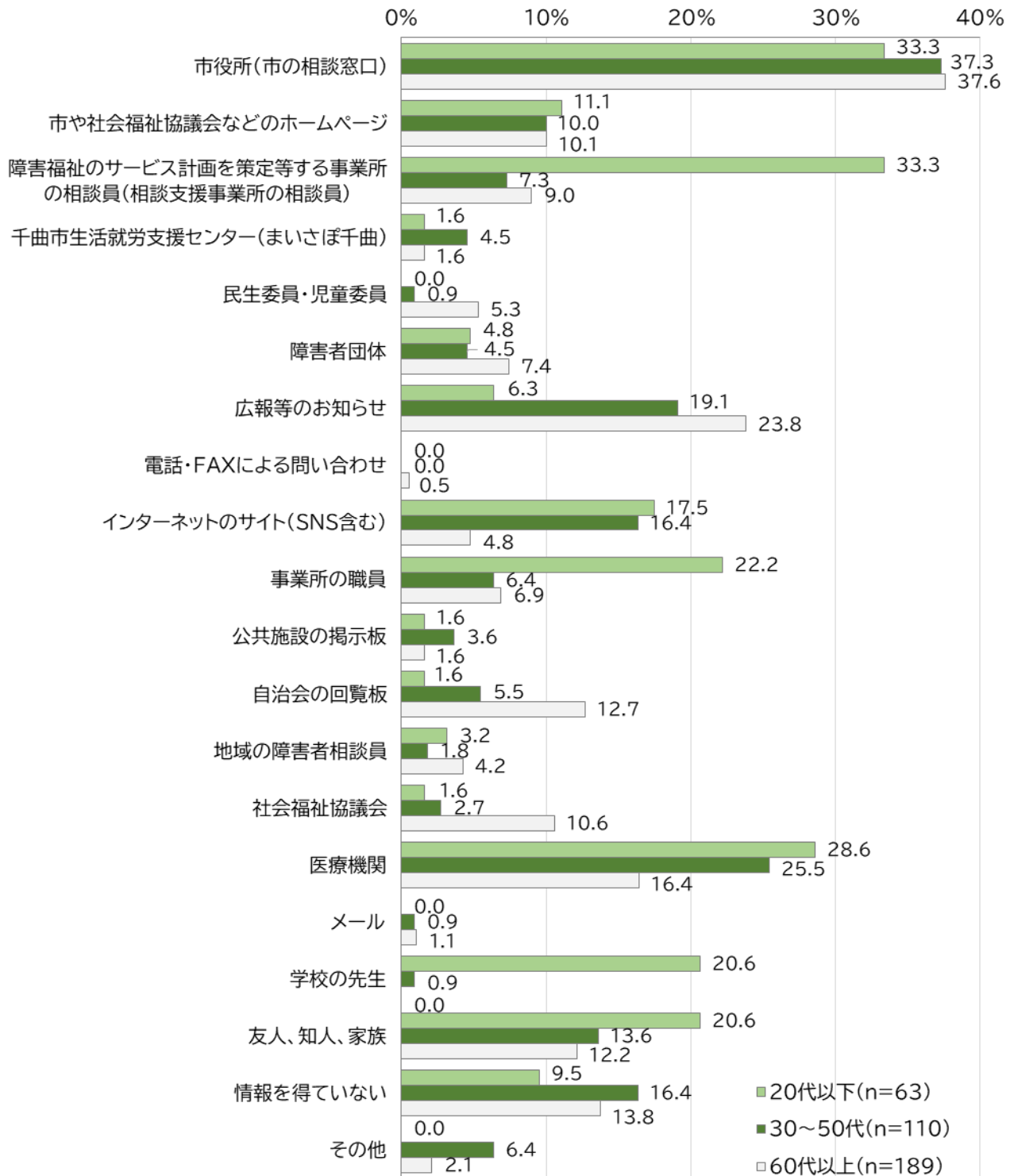
- 障害福祉サービスに関する情報の入手先は、「市役所（市の相談窓口）」が36.2%で最も高く、ついで「医療機関」、「広報等のお知らせ」が多くなっています。

図表 47 サービス等に関する情報の入手先（複数回答）



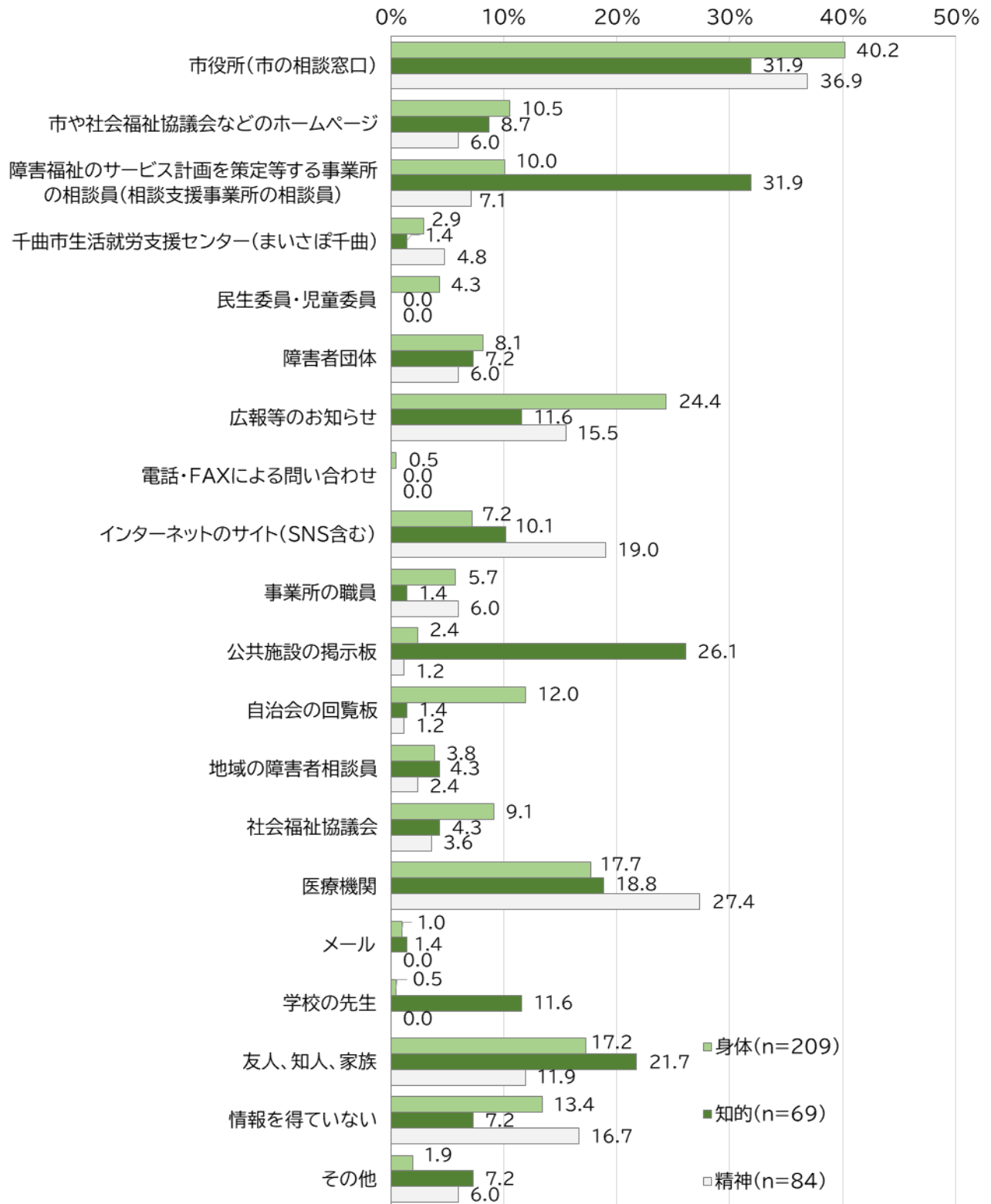
- 障害福祉サービスに関する情報の入手先を、本人の年代別にみると、すべての年代で「市役所（市の相談窓口）」が最も多くなっています。「20代以下」では「相談支援事業所の相談員」「医療機関」が多くなっています。「30代～50代」では「医療機関」「広報等のお知らせ」が多くなっています。「60代以上」では「広報等のお知らせ」「医療機関」が多くなっています。

図表 48 サービス等に関する情報の入手先 本人の年代とのクロス集計



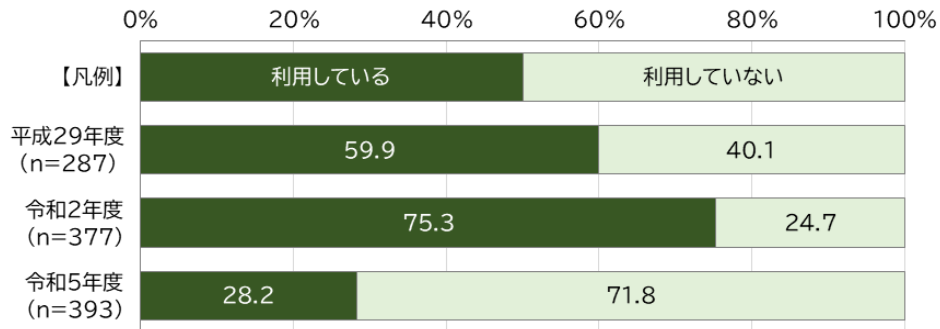
- 障害福祉サービスに関する情報の入手先を、障がいの種類別にみると、すべての障がいにおいて「市役所（市の相談窓口）」が最も多くなっています。「身体」は「広報等のお知らせ」、「知的」は「相談支援事業所の相談員」、「精神」は「医療機関」が比較的多くなっています。

図表 49 サービス等に関する情報の入手先 障がいの種類とのクロス集計

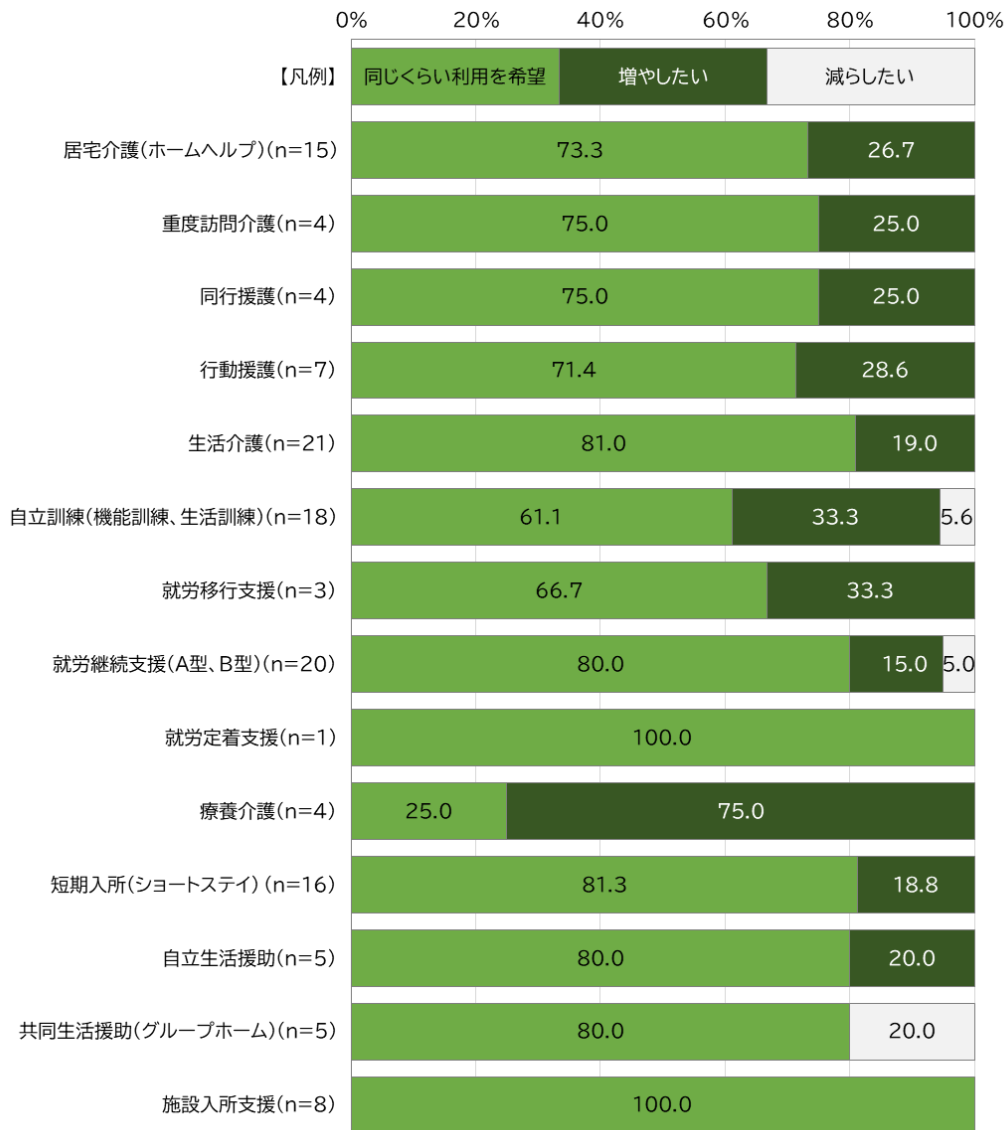


- 障害福祉サービスを現在利用している割合は28.2%で、経年比較すると令和2年度に比べて大きく減少しています。令和2年度に比べて回答者の60代以上の割合が増加していることが影響しているとみられます。
- 障害福祉サービスの3年後の利用意向をみると、全体として「同じくらい利用」が6～8割を占める一方、「増やしたい」という意向も2～3割程度みられます。

図表 50 障害福祉サービス別現在利用の有無または今後3年間の利用意向の有無

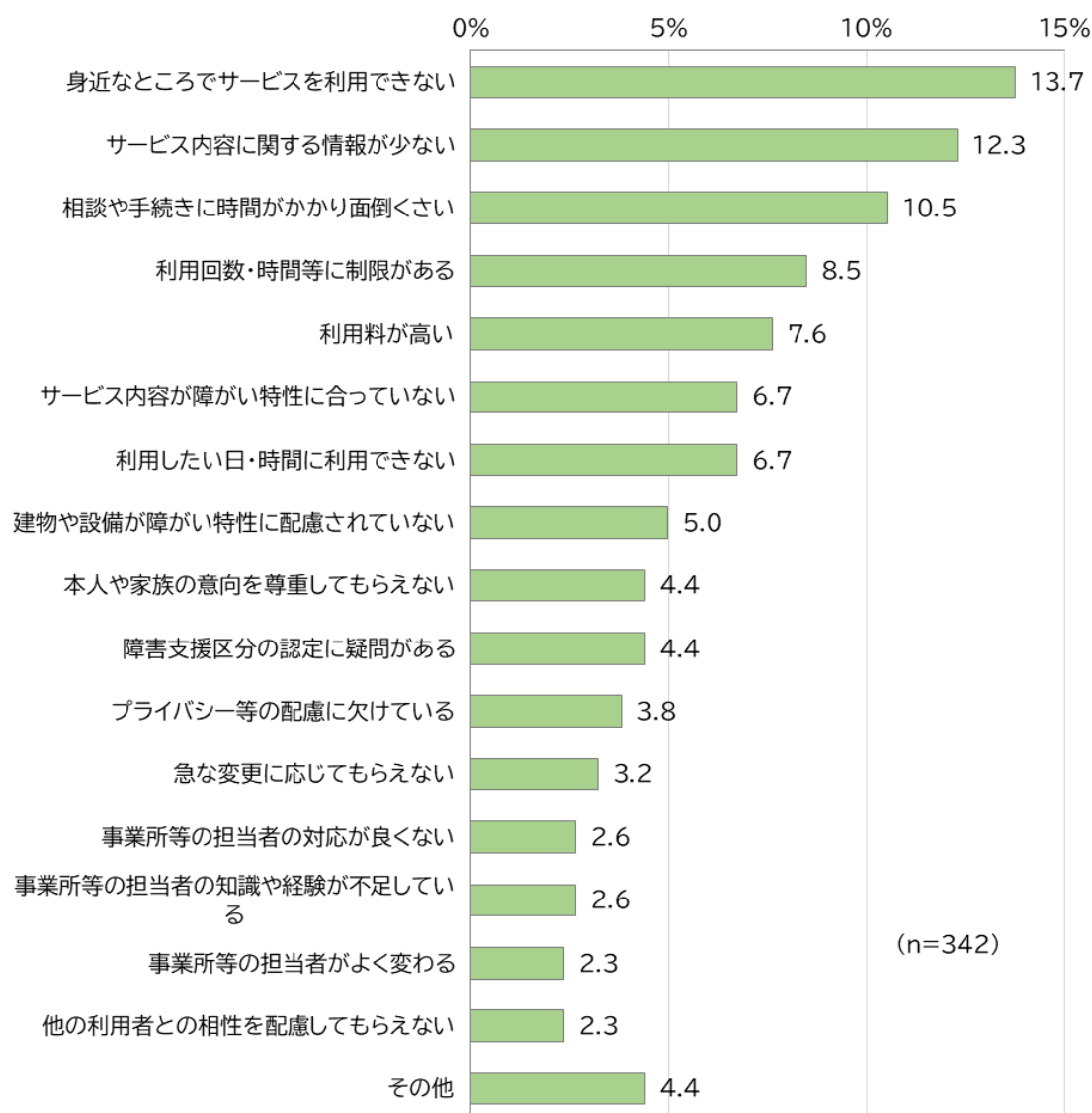


図表 51 現在利用している障害福祉サービスの3年後の利用意向



- 障害福祉サービスについて不満に思うことについては、「身近なところでサービスを利用できない」が13.7%で最も割合が高く、次いで「サービス内容に関する情報が少ない」「相談や手続きに時間がかかり面倒くさい」「利用回数・時間等に制限がある」などの割合が高くなっています。

図表 52 現在の制度やサービスに不満を感じる点（複数回答）

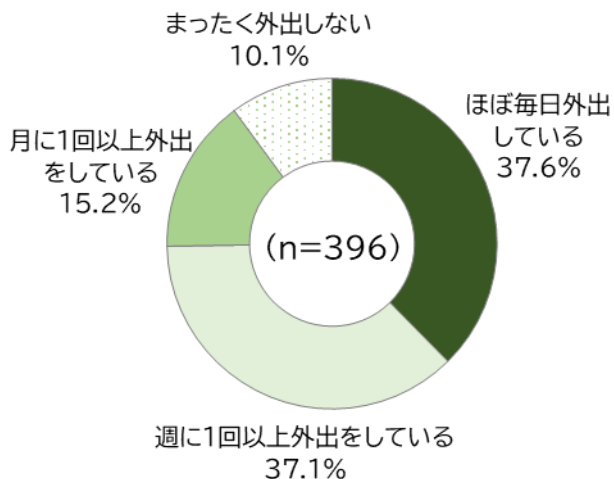


## 7. 外出について

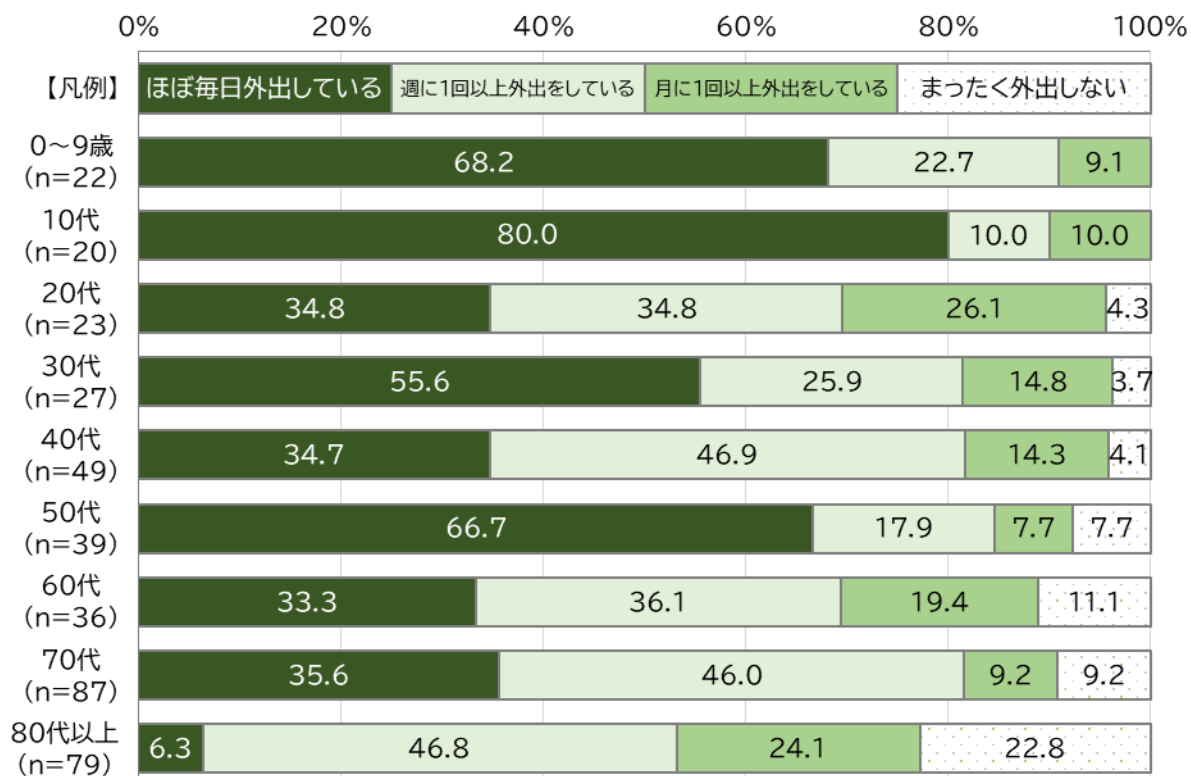
- 普段の外出の頻度は、「ほぼ毎日外出している」「週1回以上外出をしている」の割合の合計は74.7%を占めています。
- 本人の年代別にみると、「ほぼ毎日外出している」「週に1回以上外出をしている」の合計割合は、20代以上で概ね7~8割となっています。

図表 53 普段の外出の頻度

	度数(人)	割合(%)
ほぼ毎日外出している	149	37.6
週に1回以上外出をしている	147	37.1
月に1回以上外出をしている	60	15.2
まったく外出しない	40	10.1
合計	396	100.0



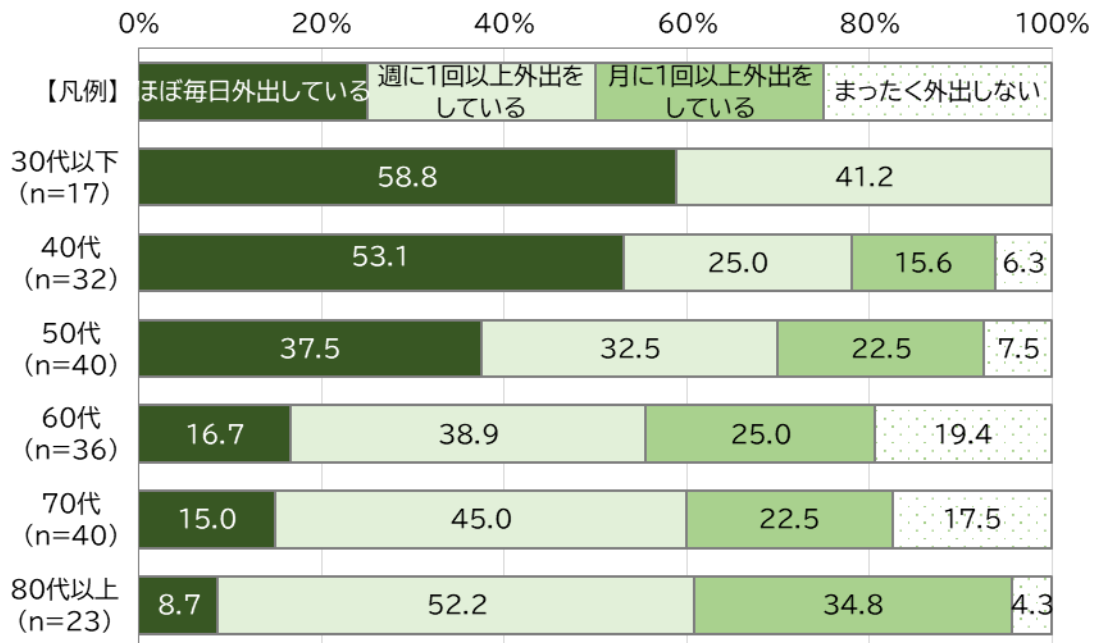
図表 54 普段の外出の頻度 本人の年代とのクロス集計



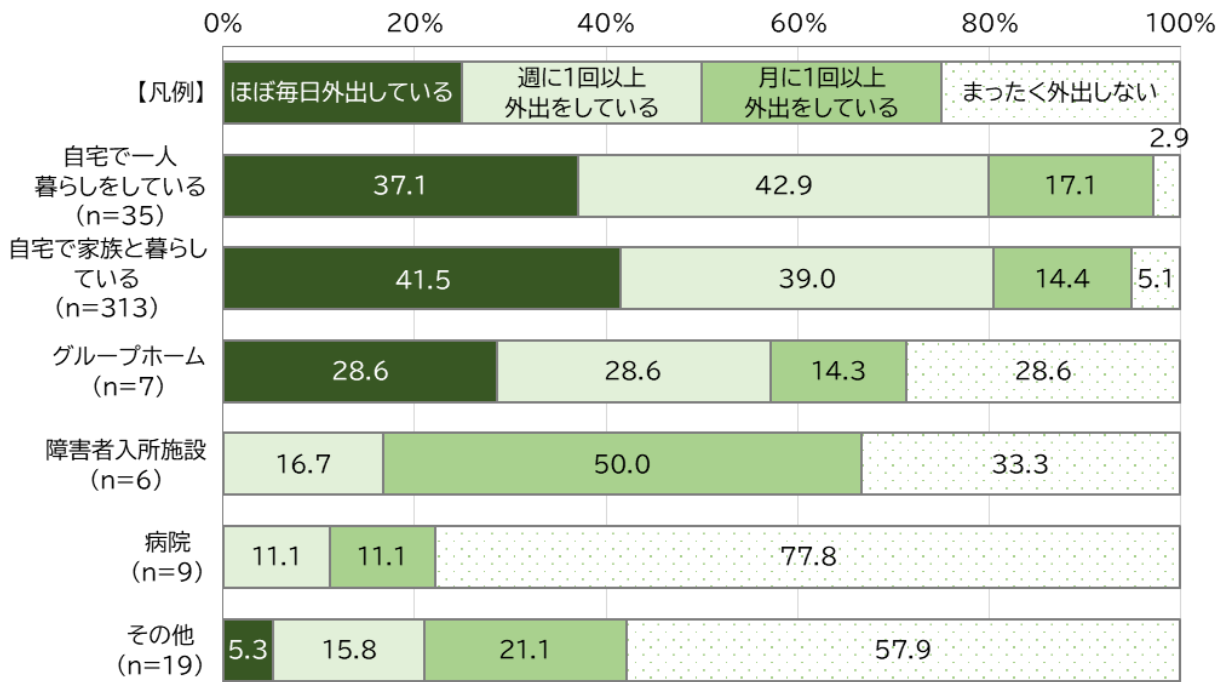


- 普段の外出の頻度を介助者の年代別にみると、「ほぼ毎日外出している」の割合は介助者の年代が上がるほど低くなっています。
- 普段の外出の頻度を現在の暮らし方別にみると、「自宅で一人暮らしをしている」「自宅で家族と暮らしている」「グループホーム」で外出の頻度が高くなっています。

図表 55 普段の外出の頻度 介助者の年代とのクロス集計

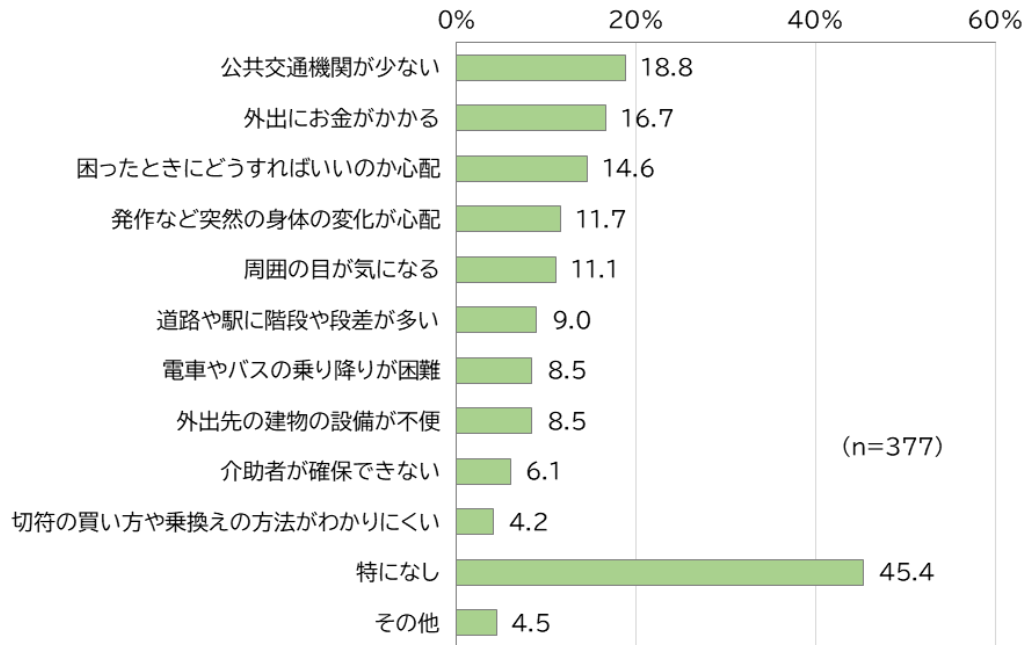


図表 56 普段の外出の頻度 現在の暮らし方とのクロス集計

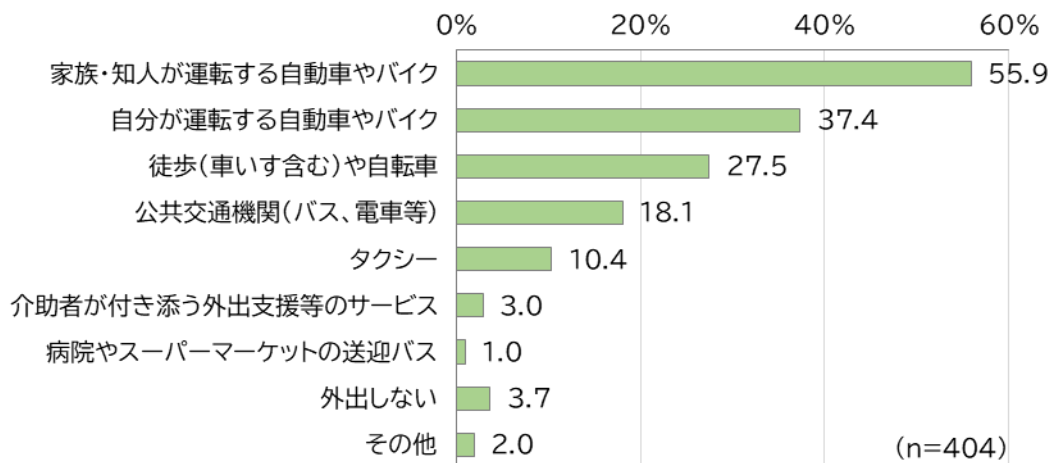


- 外出時に困っていることとしては、「特になし」を除くと、「公共交通機関が少ない」、「外出にお金がかかる」「困ったときにどうすればいいのか心配」が多くなっています。
- 外出時の主な移動手段は、「家族・知人が運転する自動車やバイク」が最も多く、次いで「自分が運転する自動車やバイク」が多くなっています。

図表 57 外出時に困っていること（複数回答）



図表 58 外出時の主な移動手段（複数回答）

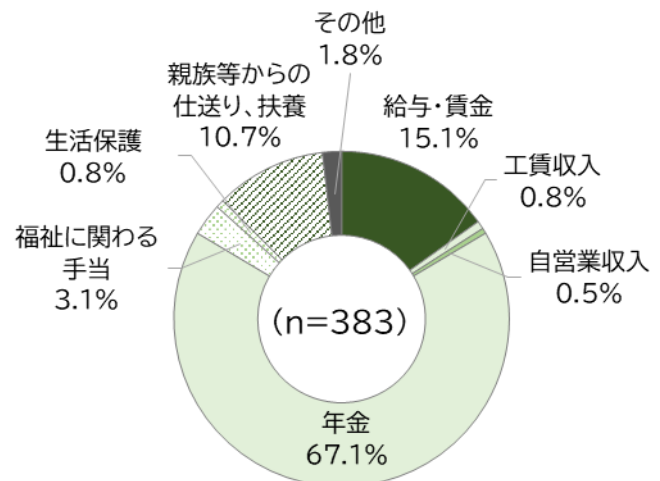


## 8. 居場所や収入、就労について

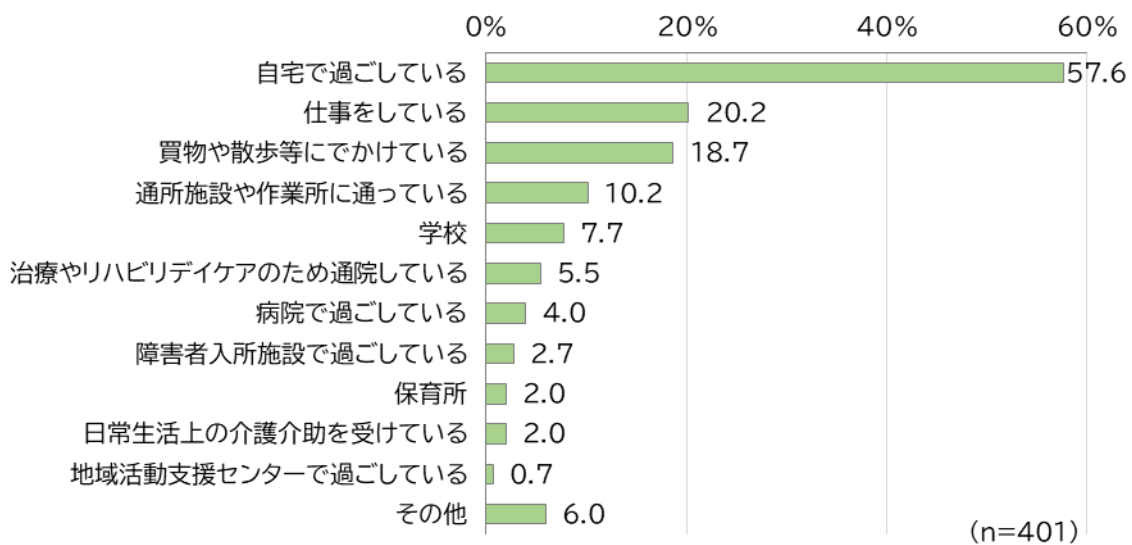
- 主な収入源は「年金」が67.1%を占めています。
- 平日、日中の主な過ごし方では「自宅で過ごしている」の割合が最も高く、次いで「仕事をしている」「買い物や散歩等にでかけている」が高くなっています。

図表 59 主な収入源

	度数(人)	割合(%)
給与・賃金	58	15.1
工賃収入	3	0.8
自営業収入	2	0.5
年金	257	67.1
福祉に関わる手当	12	3.1
生活保護	3	0.8
親族等からの仕送り、扶養	41	10.7
その他	7	1.8
合計	383	100.0

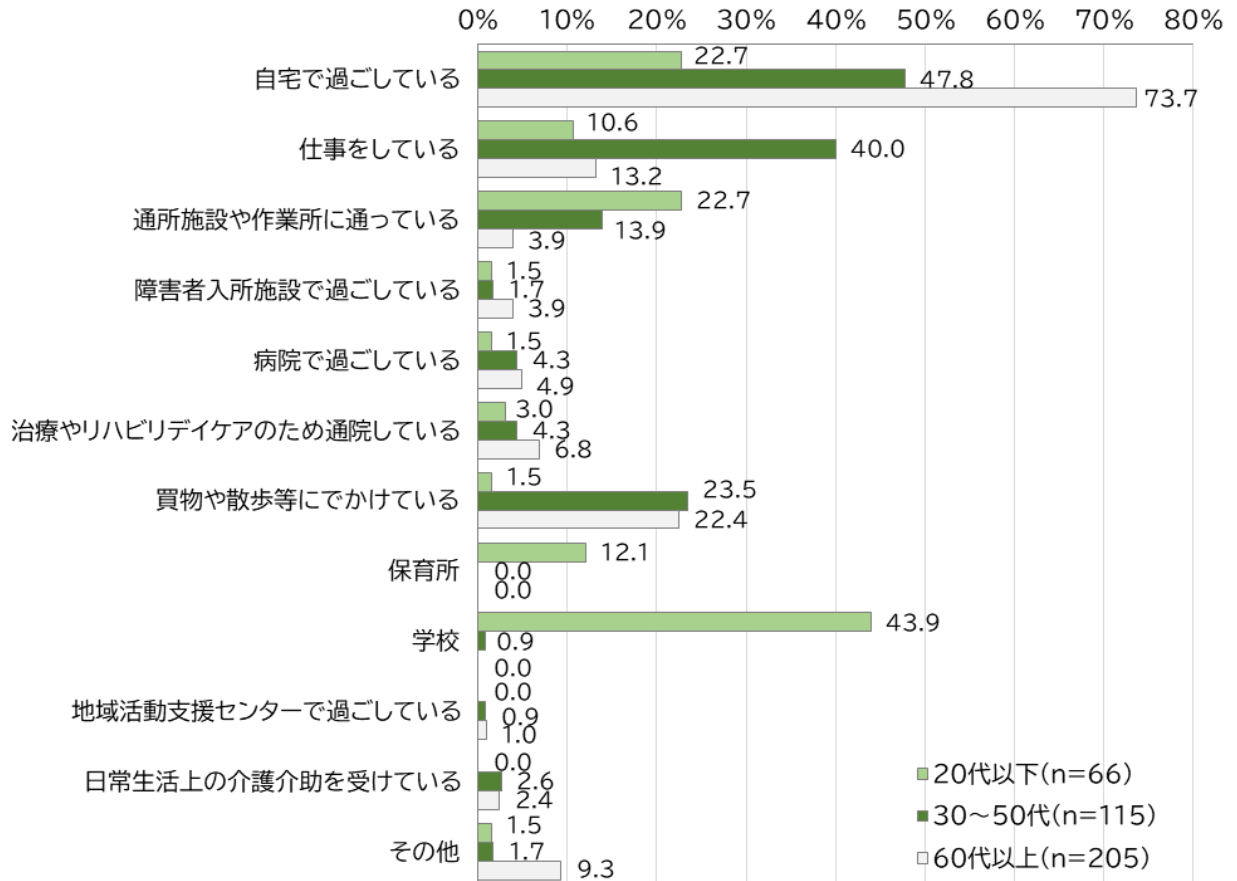


図表 60 平日、日中の主な過ごし方 (複数回答)



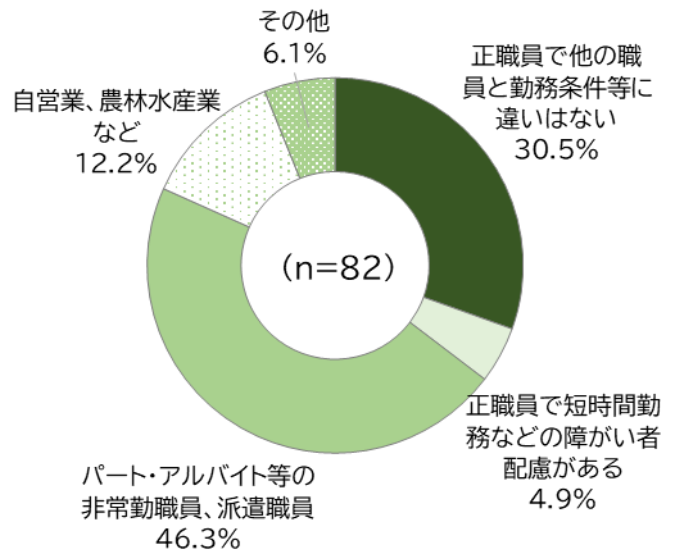
- 平日、日中の主な過ごし方を本人の年代別にみると、20代以下は「学校」が最も多く、30～50代までは「自宅で過ごしている」が最も多く、次いで「仕事をしている」が多くなっています。60代以上では「自宅で過ごしている」が最も多くなっています。
- 平日、日中に「仕事をしている（企業等）」と回答した人のうち、勤務形態は「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が最も多く、次いで「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が多くなっています。

図表 61 平日、日中の主な過ごし方 本人の年代とのクロス集計



図表 62 勤務形態

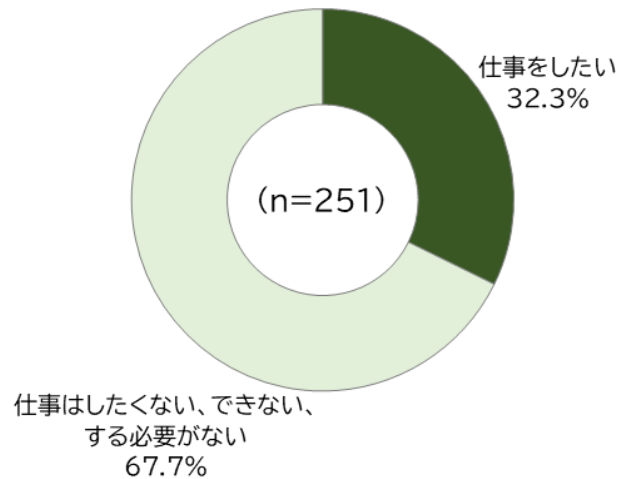
	度数(人)	割合(%)
正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない	25	30.5
正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある	4	4.9
パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員	38	46.3
自営業、農林水産業など	10	12.2
その他	5	6.1
合計	82	100.0



- 今後収入を得る仕事をしたいかという問に対しては、「仕事をしたくない、できない、する必要がない」が67.7%を占めています。
- 今後「仕事をしたい」と回答した人のうち、「収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいか」という問に対して、「職業訓練を受けたい」と回答した人は64.0%を占めています。

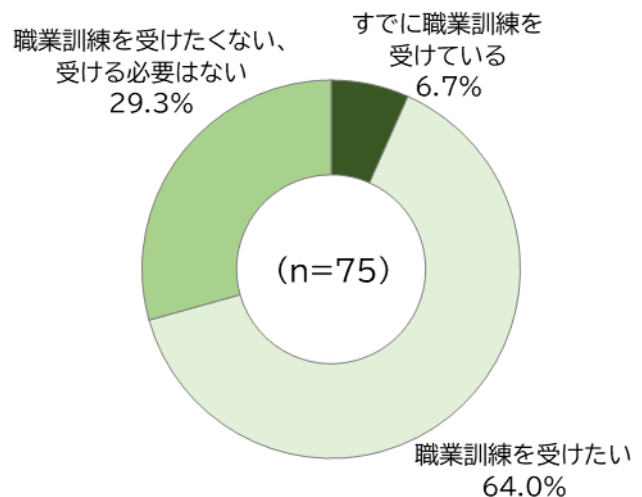
図表 63 今後収入を得る仕事をしたいか

	度数(人)	割合(%)
仕事をしたい	81	32.3
仕事はしたくない、 できない、する必要 がない	170	67.7
合計	251	100.0



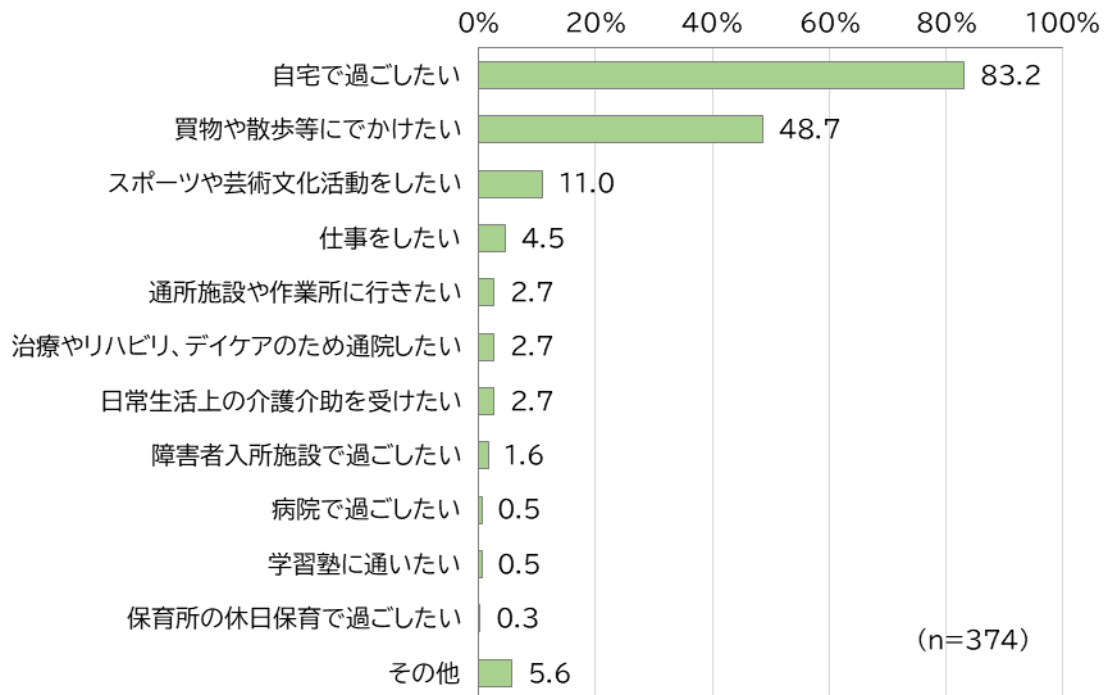
図表 64 収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいか  
（「仕事をしたい」のみ）

	度数(人)	割合(%)
すでに職業訓練を受けている	5	6.7
職業訓練を受けたい	48	64.0
職業訓練を受けたくない、 受ける必要はない	22	29.3
合計	75	100.0

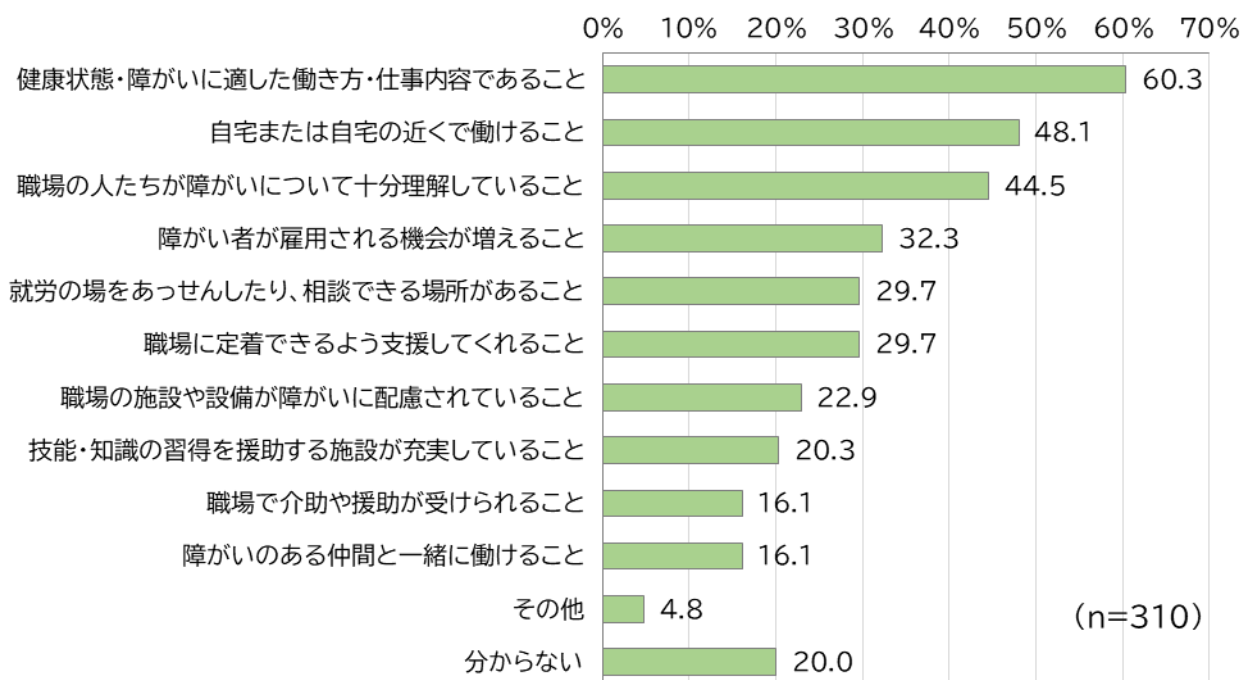


- 休日、日中に希望する過ごし方としては、「自宅で過ごしたい」が83.2%で最も高くなっており、次いで「買物や散歩等にてかけたい」が多くなっています。
- 働くために必要だと思うこととしては、「健康状態・障がいに適した働き方・仕事内容であること」が最も多く、次いで「自宅または自宅の近くで働けること」「職場の人たちが障がいについて十分理解していること」が多くなっています。

図表 65 休日、日中に希望する過ごし方（複数回答）



図表 66 働くために必要だと思うこと（複数回答）

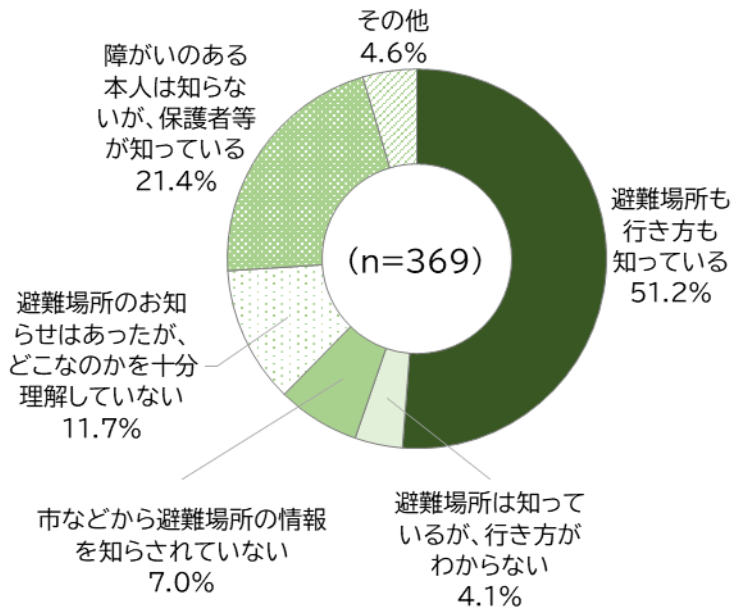


## 9. 災害時等の緊急時の対応について

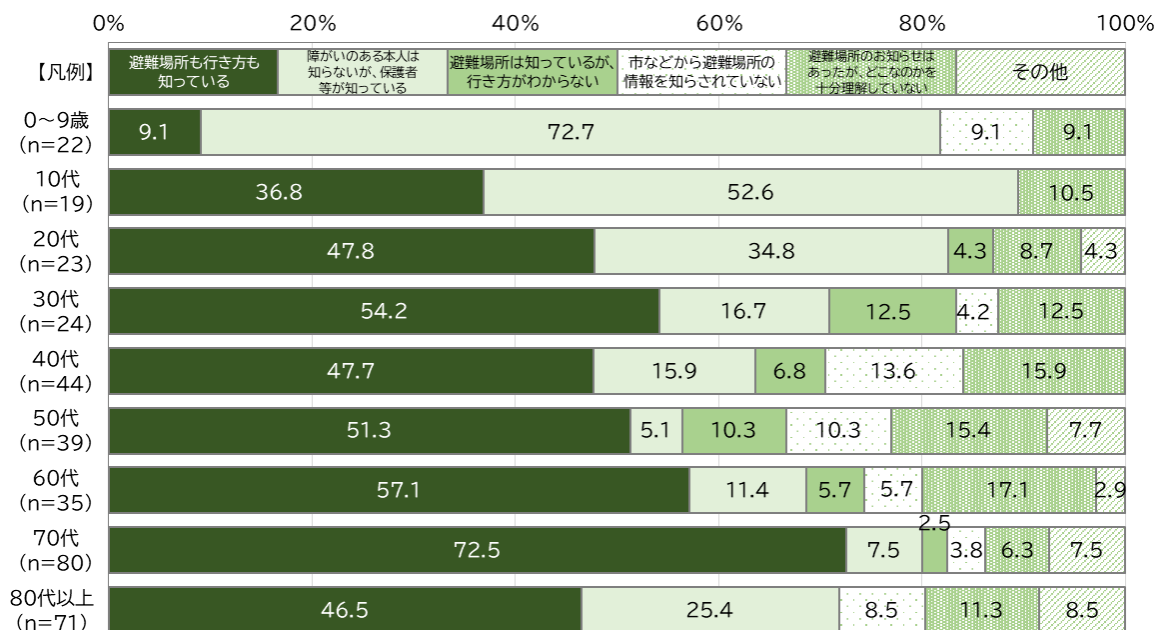
- 災害時の避難場所や避難場所への行き方を知っているかについては、「避難場所も行き方も知っている」が51.2%、「障がいのある本人は知らないが、保護者等が知っている」が21.4%などとなっています。

図表 67 災害時の避難場所や避難場所への行き方を知っているか

	度数(人)	割合(%)
避難場所も行き方も知っている	189	51.2
避難場所は知っているが、行き方がわからない	15	4.1
市などから避難場所の情報を知らされていない	26	7.0
避難場所のお知らせはあったが、どこなのかを十分理解していない	43	11.7
障がいのある本人は知らないが、保護者等が知っている	79	21.4
その他	17	4.6
合計	369	100.0

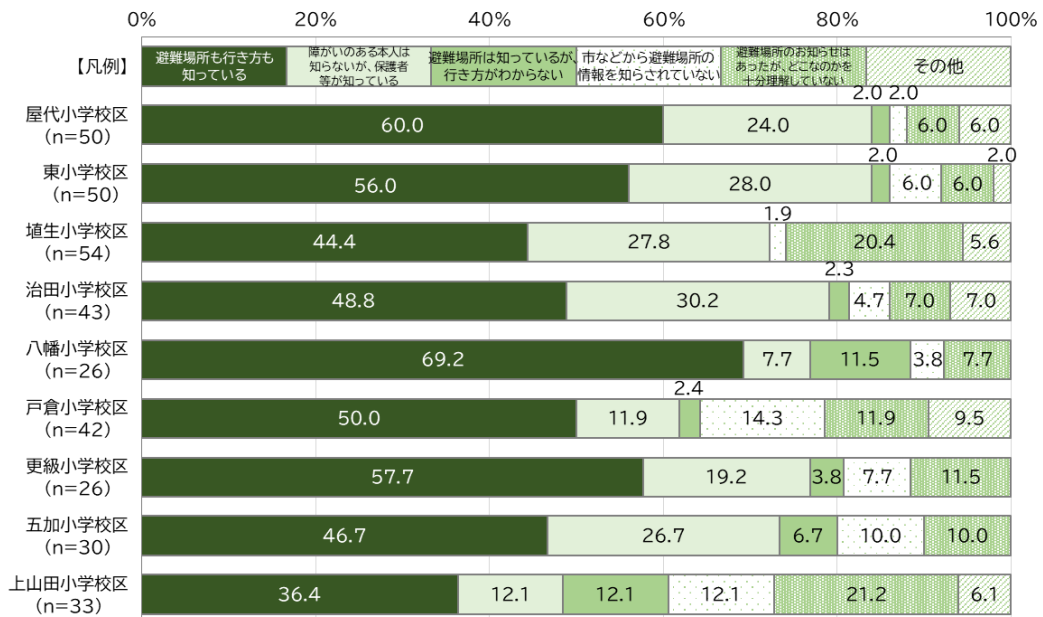


図表 68 災害時の避難場所や避難場所への行き方を知っているか  
本人の年代とのクロス集計

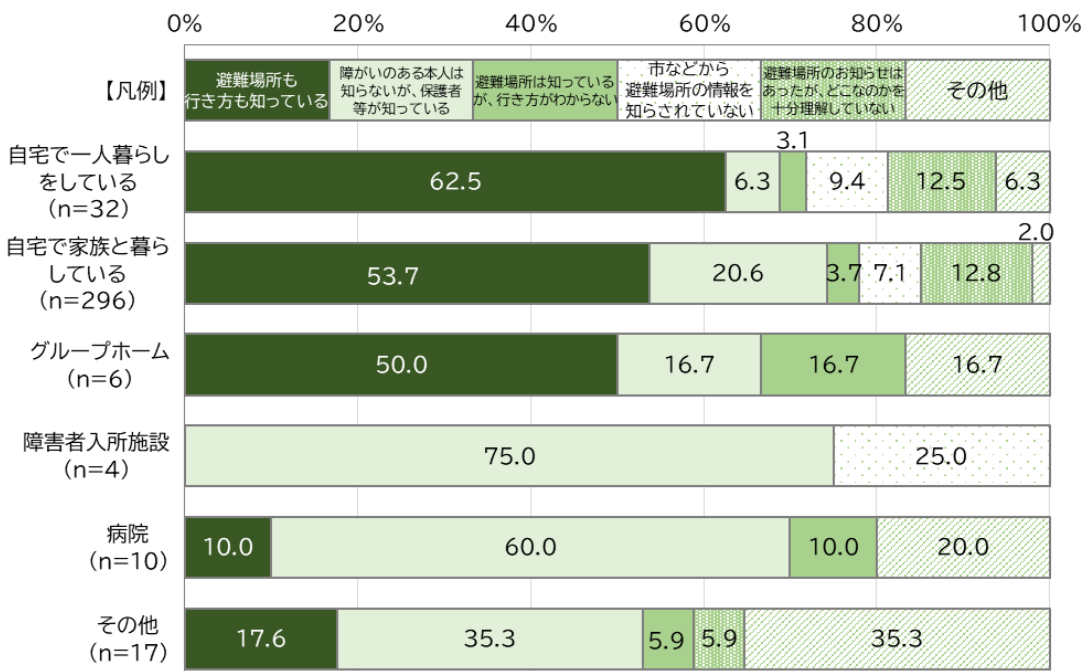


- 災害時の避難場所や避難場所への行き方の認知度を居住地別にみると、「避難場所も行き方も知っている」の割合が最も低いのは「上山田小学校区」(36.4%)、次いで「埴生小学校区」(44.4%)、「五加小学校区」(46.7%)となっています。
- 現在の暮らし方別にみると、「避難場所も行き方も知っている」の割合は「自宅で一人暮らしをしている」「自宅で家族と暮らしている」「グループホーム」で過半数を超えていますが、一方で施設や病院等に在る人での割合は低くなっています。

図表 69 災害時の避難場所や避難場所への行き方を知っているか  
居住地とのクロス集計



図表 70 災害時の避難場所や避難場所への行き方を知っているか  
現在の暮らし方とのクロス集計

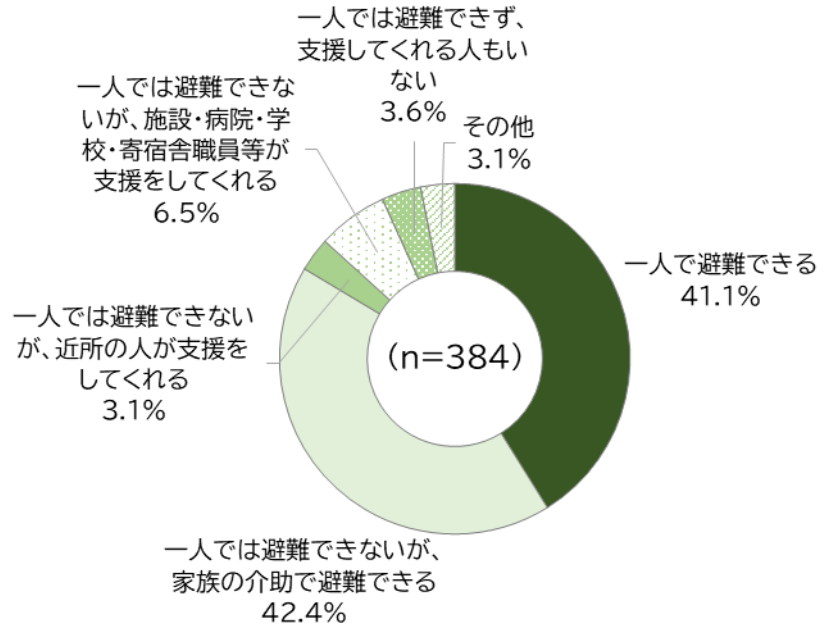




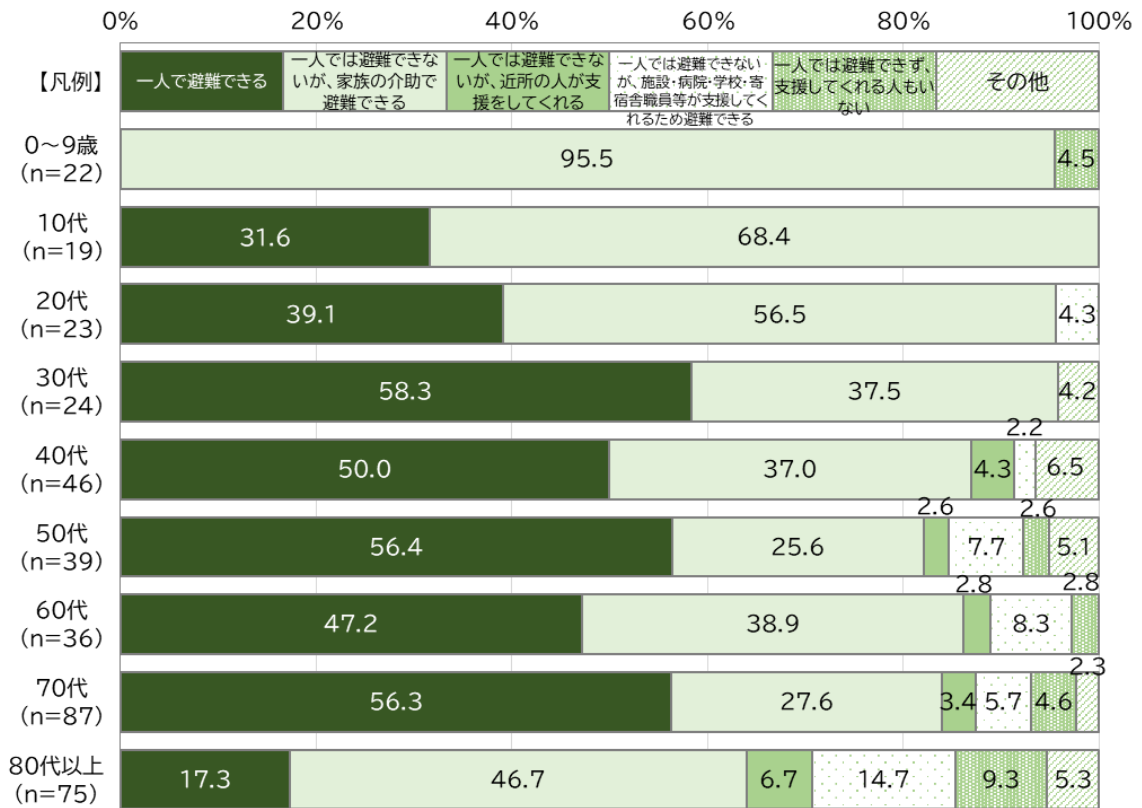
- 災害等の緊急時に一人で避難できると思うかという問いに対しては、「1人では避難できず、支援してくれる人もいない」は3.6%となっています。
- 本人の年代別にみると、年齢が上がるごとに避難に支援を要する傾向がみてとれます。

図表 71 災害等の緊急時に一人で避難できると思うか

	度数(人)	割合(%)
一人で避難できる	158	41.1
一人では避難できないが、家族の介助で避難できる	163	42.4
一人では避難できないが、近所の人支援をしてくれる	12	3.1
一人では避難できないが、施設・病院・学校・寄宿舎職員等が支援をしてくれる	25	6.5
一人では避難できず、支援してくれる人もいない	14	3.6
その他	12	3.1
合計	384	100.0

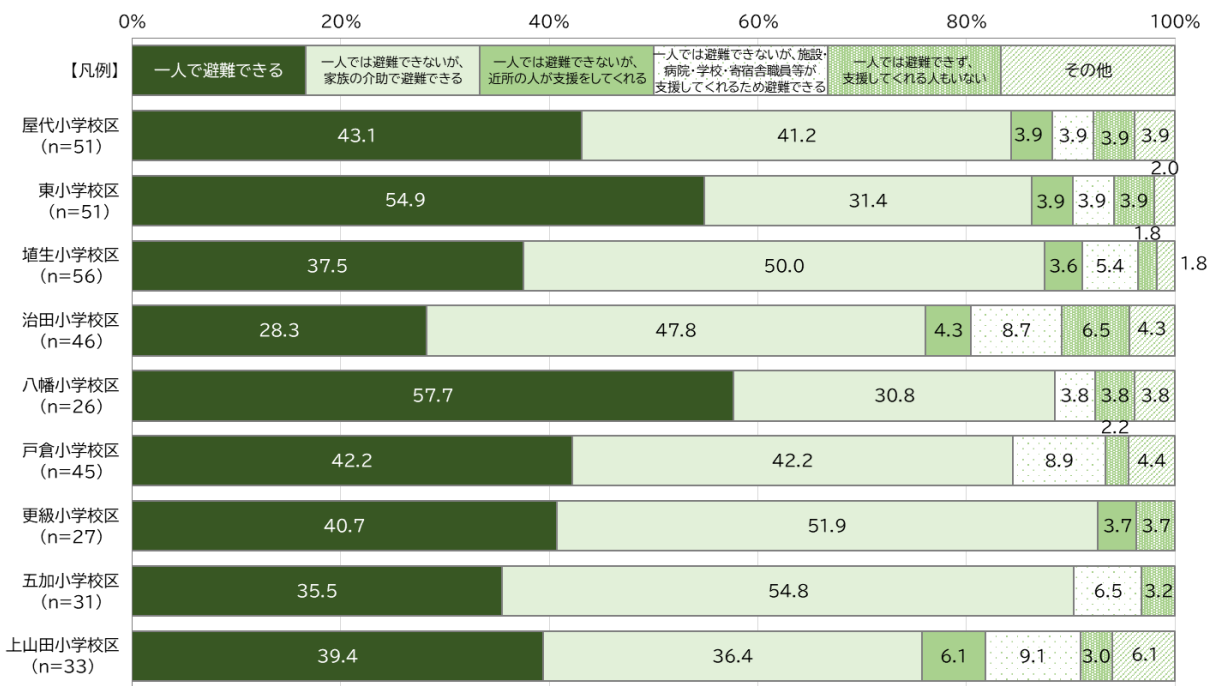


図表 72 災害等の緊急時に一人で避難できると思うか  
本人の年代とのクロス集計

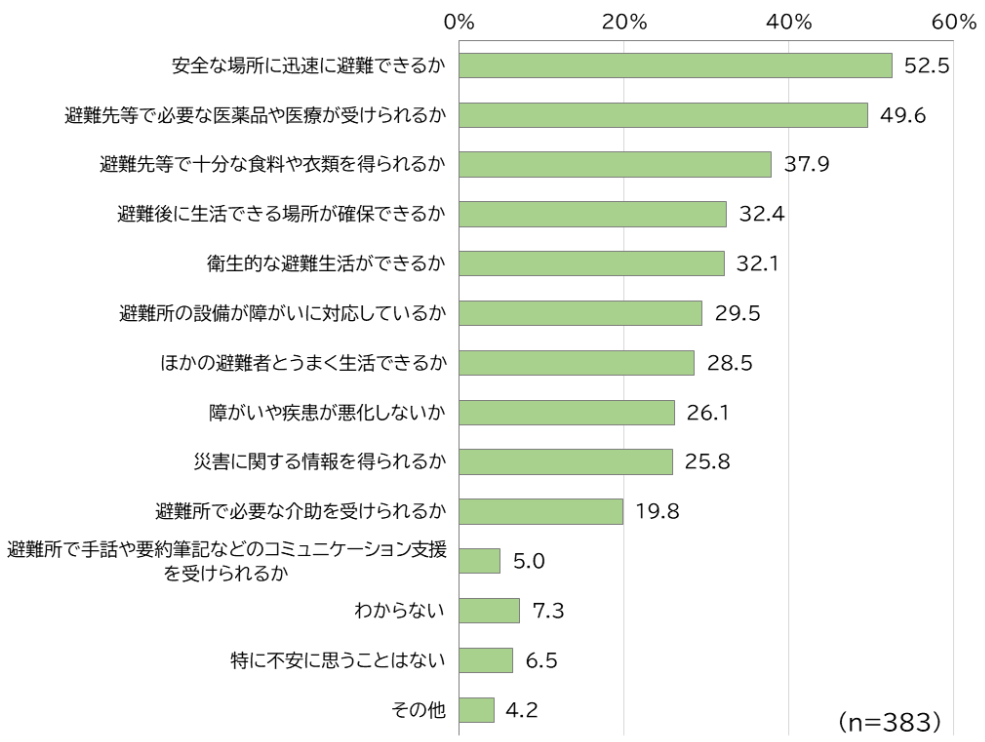


- 災害等の緊急時に一人で避難できると思うかという問の回答を居住地別にみると、「一人で避難できる」の割合が「治田小学校区」で低くなっているなど、地区によって差がみられます。
- 災害時に不安に思うこととしては、「安全な場所に迅速に避難できるか」と回答した割合が最も高く、次いで「避難先等で必要な医薬品や医療が受けられるか」が高くなっています。

図表 73 災害等の緊急時に一人で避難できると思うか  
居住地とのクロス集計



図表 74 災害時に不安に思うことは何か（複数回答）



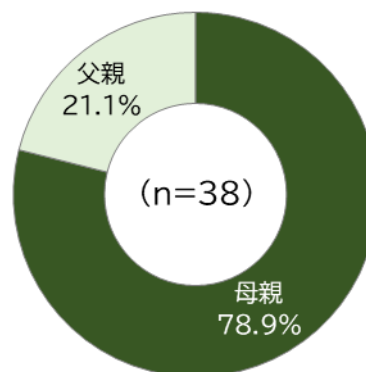
### III 障がい児向け項目の調査結果

#### 1. ご家庭の状況や子育て環境について

- 障がい児向けの設問において、回答者の本人に対する続柄としては、「母親」が78.9%を占めています。
- 保護者の配偶関係をみると、「配偶者がいる」が94.7%となっています。
- 子育てや介助を主に行っている人をみると、「主に母親」が63.2%を占めています。

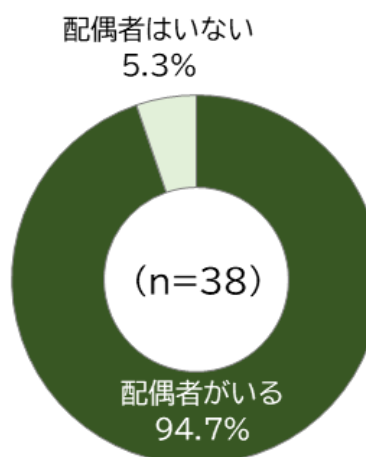
図表 75 回答している保護者の続柄

	度数(人)	割合(%)
母親	30	78.9
父親	8	21.1
合計	38	100.0



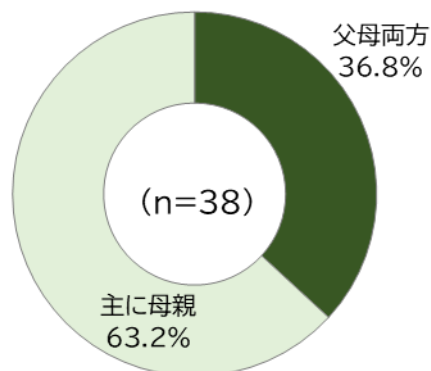
図表 76 保護者の配偶関係

	度数(人)	割合(%)
配偶者がいる	36	94.7
配偶者がいない	2	5.3
合計	38	100.0



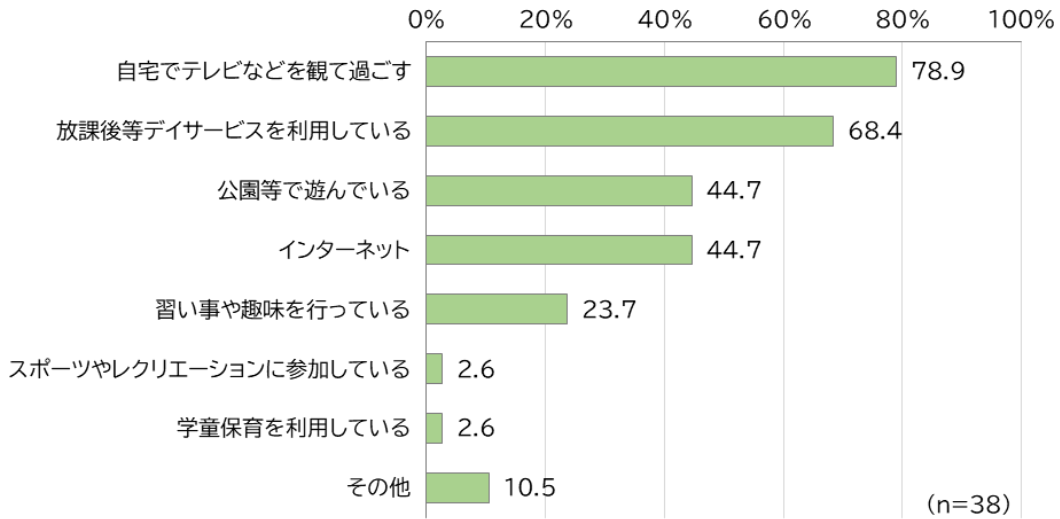
図表 77 子育てや介助を主に行っている人

	度数(人)	割合(%)
父母両方	14	36.8
主に母親	24	63.2
合計	38	100.0



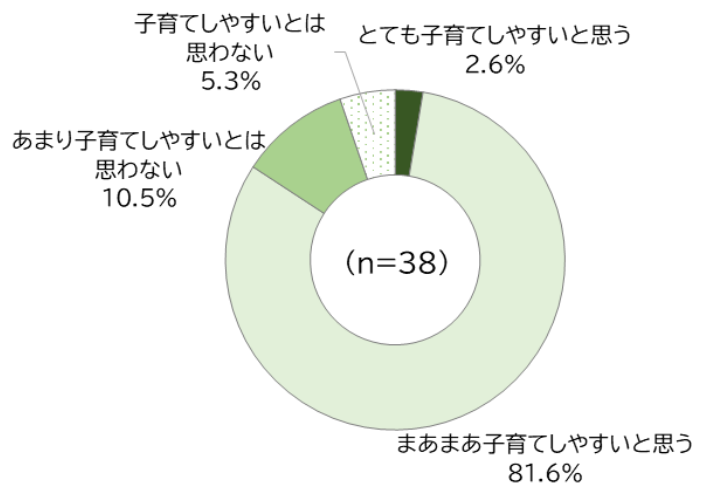
- 障がいのある児童・生徒の放課後や休みの日の過ごし方をみると、「自宅でテレビなどを観て過ごす」の割合が最も高く（78.9%）、次いで「放課後等デイサービスを利用している」（68.4%）が多くなっています。
- 居住する地区の子育て環境への評価としては、「とても子育てしやすいと思う」が2.6%、「まあまあ子育てしやすいと思う」が81.6%で、この合計で84.2%を占めています。一方で「あまり子育てしやすいとは思わない」「子育てしやすいとは思わない」の合計が15.8%となっています。

図表 78 放課後や休みの日の過ごし方（複数回答）



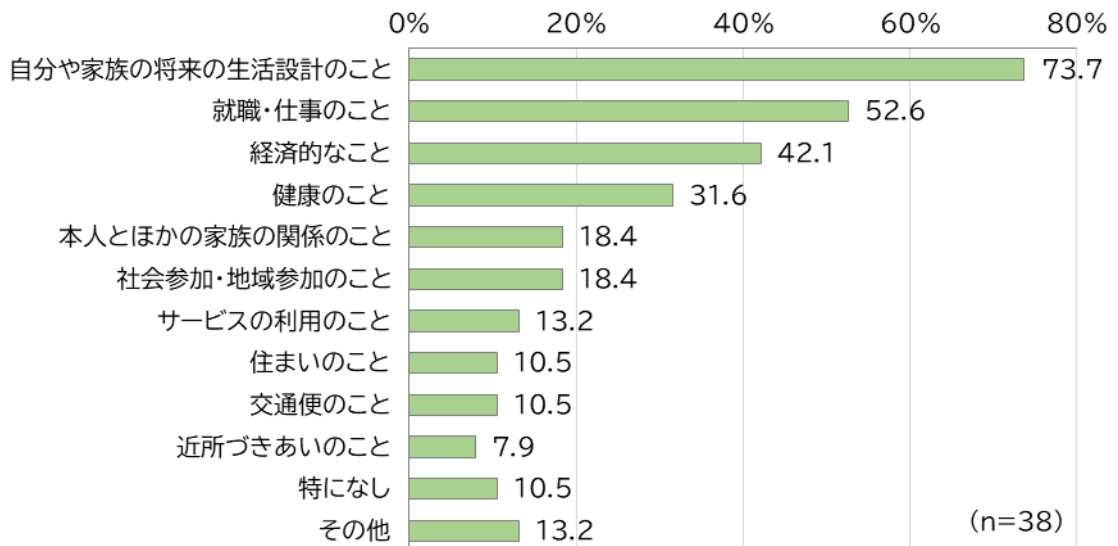
図表 79 お住まいの地区は子育てしやすいと思うか

	度数(人)	割合(%)
とても子育てしやすいと思う	1	2.6
まあまあ子育てしやすいと思う	31	81.6
あまり子育てしやすいとは思わない	4	10.5
子育てしやすいとは思わない	2	5.3
合計	38	100.0

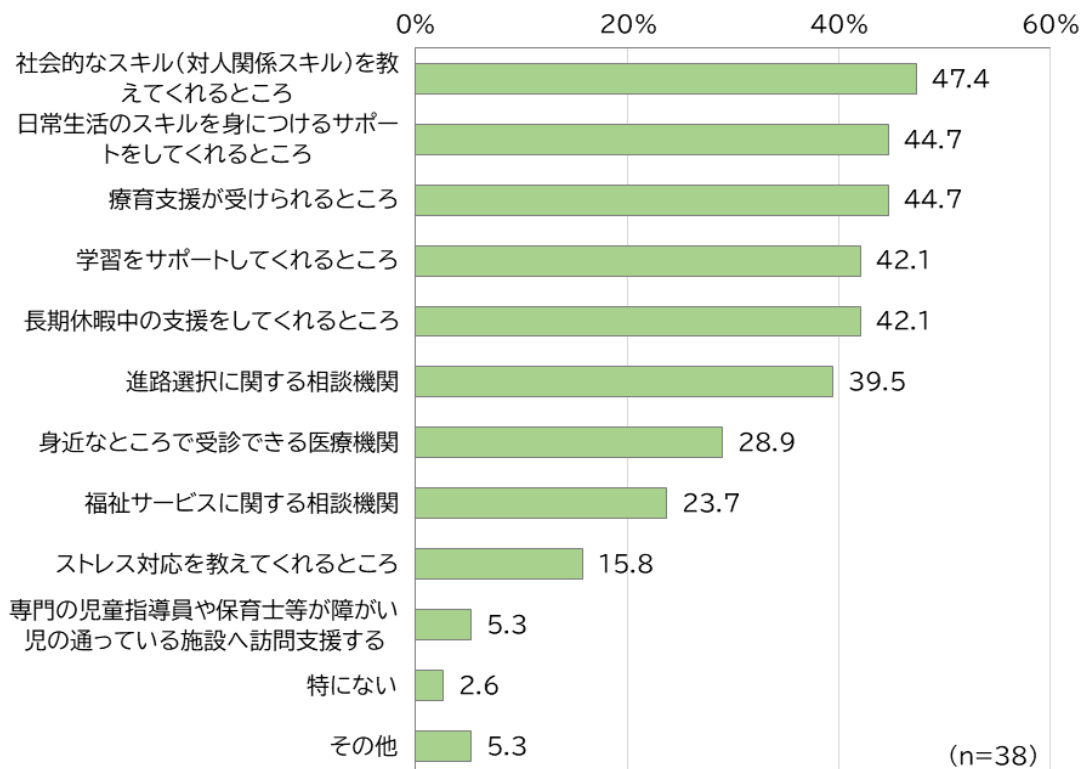


- 本人を介助・支援するにあたって悩んでいることとしては、「自分や家族の将来の生活設計のこと」が最も多く（73.7%）、次いで「就職・仕事のこと」（52.6%）「経済的なこと」（42.1%）が多くなっています。
- 「本人や家族が求める療育・保育に関する支援」としては、「社会的なスキル（対人関係スキル）を教えてくれるところ」が最も多く（47.4%）、次いで「日常生活のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」（44.7%）、「療育支援が受けられるところ」（44.7%）が多くなっています。

図表 80 本人を介助・支援するにあたって悩んでいること（複数回答）



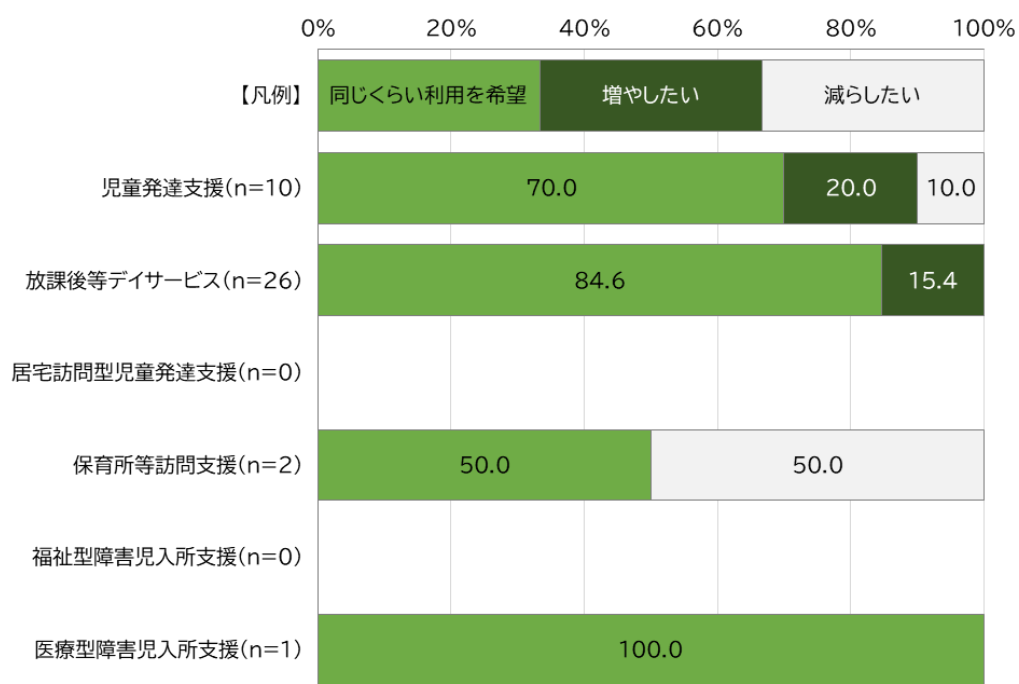
図表 81 本人や家族が求める療育・保育に関する支援（複数回答）



## 2. 障がい児への支援について

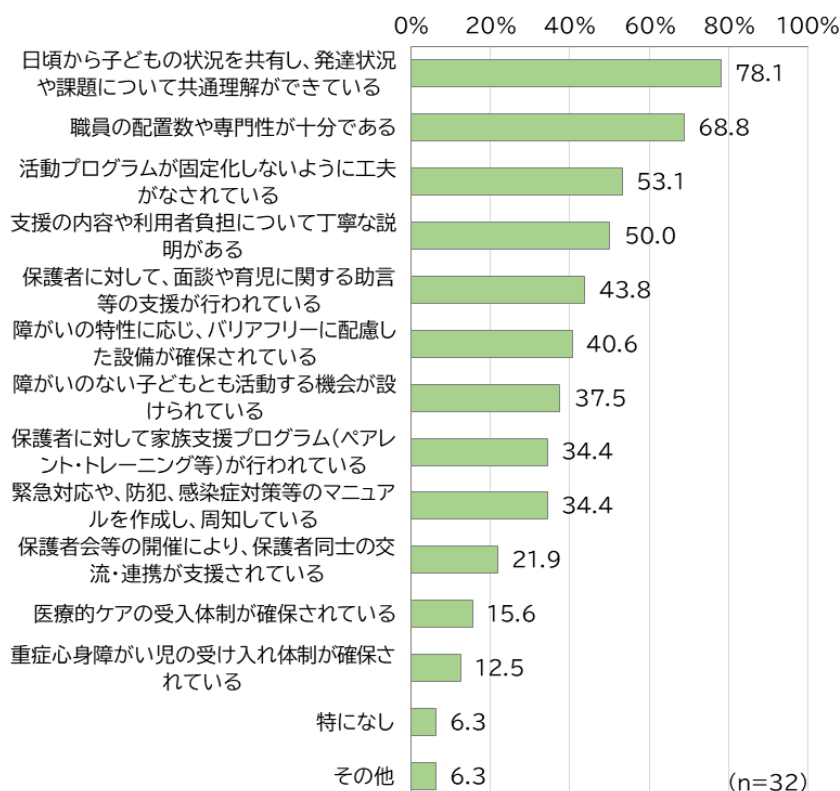
- 現在利用している障害児福祉サービスにおける今後3年以内の利用意向については、全体として「同じくらい利用」が多くを占める一方、「児童発達支援」で2人が、「放課後等デイサービス」で4人が、「増やしたい」という意向を示しています。
- 「減らしたい」という意向はあまりみられませんが、「児童発達支援」で1人が、「保育所等訪問支援」で1人が、その意向を示しています。

図表 82 現在利用している障害児福祉サービスの今後3年以内の利用意向

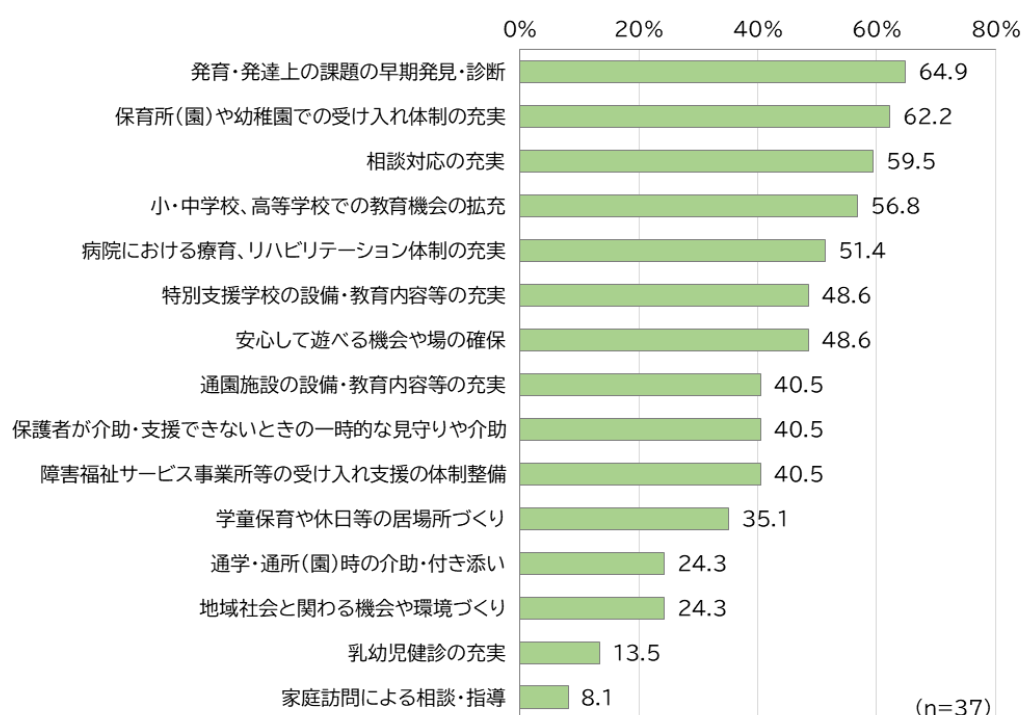


- 通所施設に対して求めることとしては、「日頃から子どもの状況を共有し、発達状況や課題について共通理解ができている」が最も高く、次いで「職員の配置数や専門性が十分である」等が多くなっています。
- 障がい児にとって特に重要なこととしては、「発育・発達上の課題の早期発見・診断」が64.9%で最も割合が高く、次いで「保育所（園）や幼稚園での受け入れ体制の充実」「相談対応の充実」などの割合が高くなっています。

図表 83 通所施設に対して求めること（複数回答）



図表 84 障がいのある子どものために、特に重要だと思うこと（複数回答）



- 障がい者の教育にとって必要なこととしては、「自分に合った学習指導を受けられること」が91.7%で最も割合が高く、次いで「自分でできることは自分でできるようになるための早くからの訓練」「多くの子どもに障がいのことをもっと知ってもらうこと」などの割合が高くなっています。

図表 85 障がい者の教育にとって必要なこと（複数回答）

